

CSR報告書 2026

編集方針

本報告書は、貴金属がもたらすゆとりある豊かな社会と美しい地球の未来の実現に向けて田中貴金属※が進めているCSR(企業の社会的責任)活動を報告するとともに、ステークホルダーの皆様とのコミュニケーションを図ることを目的として発行しています。
2004年に環境報告書を発行して以来、今年で23回目の発行となります。

※当社のグループ総称を「田中貴金属」と表記しています。

対象期間

2025年1月～2025年12月。
ただし、一部対象期間外の内容も掲載しています。

対象範囲

株式会社田中貴金属グループと連結子会社を含むグループ全体を対象としています。
ただし、Metalor Technologies SAを除きます。なお、対象範囲が異なる場合は当該箇所に明示しています。
田中貴金属については以下をご覧ください。
<https://www.tanaka.co.jp/about/>

発行時期

2026年6月

参考ガイドライン

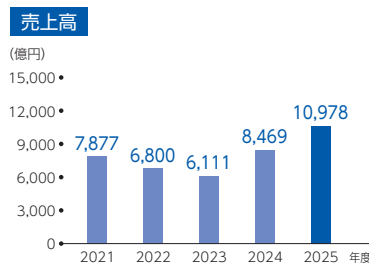
ISO26000:2010
環境報告ガイドライン2018年版

発行責任部署

株式会社田中貴金属グループ サステナビリティ・広報本部 CSR推進部
〒103-0025 東京都中央区日本橋茅場町2-6-6
ホームページ <https://www.tanaka.co.jp/sustainability/csr/>
本報告書へのご意見・ご感想も[こちら](#)からお寄せください。

田中貴金属財務状況

業績要約	百万円		
	2024年度	2025年度	前年度比
売上高	846,921	1,097,813	129.6%
当期純利益	28,964	36,664	126.6%
総資産	1,420,332	1,864,592	131.3%



2023年度より会計年度を変更。2022年度以前は各年4月～翌年3月。
2023年度は経過措置として4月～12月。2024年度より各年1月～12月で計上。



Metalor Technologies SA含む

CONTENTS

- 02 | トップメッセージ
- 03 | 田中貴金属の事業
- 06 | 研究開発
- 09 | 品質と信頼
- 11 | 地球環境を守る
- 15 | 地域・社会への貢献
- 17 | 一人ひとりの活躍
- 20 | 特例子会社「田中貴金属ネクスト」設立
- 21 | より安全な職場環境づくり
- 23 | 健康経営の実現に向けて
- 24 | 誠実で健全な企業であるために
- 27 | CSRパフォーマンス
- 30 | 第三者保証

ISO26000の中核主題



組織統治



人権



労働慣行



環境



消費者課題



公正な事業慣行



コミュニティへの参画
及びコミュニティの発展

田中貴金属では、当社の創業200年となる2085年を見据えた上で持続可能な社会や超長期の企業経営をめざす「TANAKA ルネッサンスプラン」を2021年度よりスタートいたしました。

貴金属は、まさに可能性の塊です。宇宙、深海、人体をはじめとしたフロンティアの開拓も、人々の暮らしをより豊かにするデバイスやプロダクトの開発も、貴金属なしに成し得ることはできません。その貴金属の可能性を引き出し、よりよい未来を創り出していくことが、貴金属のリーディング・カンパニーである私たちの使命といえます。

2085年の遙か未来をめざすというのは、大きな挑戦です。そこには、全従業員の知の結集が不可欠です。私たちは「ひらめきときらめきで、今日を超える明日を創る」という大義を掲げ、一人ひとりが自ら考え、行動し、互いに刺激し合いながら、新たな価値創造に挑戦しています。

2026年には、特例子会社「田中貴金属ネクスト株式会社」を設立しました。一人ひとりの違いを尊重し、それぞれが自分らしく力を発揮できる環境を整えていくことは、これからの時代においてますます重要になると考えています。多様な個性や価値観が交わるこ

「ひらめきときらめきで、 今日を超える明日を創る」 この大義のもと、持続可能な未来創りを推進します。



とで、新たな発想やイノベーションが生まれていく。田中貴金属は、DE&Iの推進を通じて、誰もが挑戦し、成長できる組織づくりを進めています。

そして、“サステナビリティ”も「TANAKA ルネッサンスプラン」における重要なキーワードのひとつです。田中貴金属は、創業以来長年にわたり貴金属のリサイクルを究めることで循環型ビジネスを構築してきましたが、これからはより高い視座・広い視野で、脱炭素・循環型社会への転換を先導していく企業にならなければならないと考えています。2022年4月に表明した「田中貴金属グループ カーボンニュートラル宣言」のもと、2050年のCO₂排出量実質ゼロをめざして、現在、各工場や事業所でさまざまな取り組みを加速させています。

また、水素社会実現への貢献も、重要な取り組みのひとつです。田中貴金属では、長年培ってきた貴金属技術を活かし、水素エネルギー関連分野における技術開発や安定供給を通じて、次世代エネルギー社会の実現に貢献していきます。

これからも、「ひらめきときらめきで、今日を超える明日を創る」という大義のもと、希少な資源である貴金属を扱う私たちの強みを活かしながら、社会課題の解決と持続可能な未来創りを推進していきます。

田中貴金属 グループCEO

田中浩樹



田中貴金属の事業

田中貴金属は1885年の創業以来、貴金属による特別な価値を世界へ届け続けてきました。
これからも貴金属ができるすべてのことに取り組み、新しい領域を切り拓いていきます。

国内拠点

◆ 株式会社田中貴金属グループ

- 本社(東京)

◆ 田中貴金属工業株式会社

- 本社(東京) ● 岩手工場 ● 富岡工場 ● 市川工場 ● 袖ヶ浦工場
- 伊勢原工場 ● 平塚工場 ● 湘南工場 ● 平塚テクニカルセンター
- 筑波事業所(テクニカルセンター) ● 伊勢原テクニカルセンター
- FC触媒開発センター ● TANAKA物流センター
- 名古屋支店 ● 大阪支店 ● 福岡支店 ● 京都営業所

◆ 田中電子工業株式会社

- 佐賀本社工場 ● 東京事務所 ● 湘南分工場

◆ EEJA株式会社

- 本社(東京) ● 平塚事業所

◆ 田中貴金属リテイリング株式会社

- 銀座本店 ● 横浜元町店 ● 仙台店 ● 名古屋店
- 心斎橋店 ● 福岡 西鉄グランドホテル店

◆ TKT株式会社

- 本社(東京)

◆ 田中貴金属ネクスト株式会社

- 本社(東京)

◆ EEJAテクノロジーズ株式会社

- 本社・工場(茨城) ● 伊丹工場

◆ 株式会社日本ピージーエム

- 本社(東京) ● 小坂工場

海外拠点

◆ 田中貴金属工業株式会社

- 台湾田中貴金属工業股份有限公司 ● 新竹工場 ● 湖口工場 ● 台北営業 ● 高雄営業 ● 田中先端有色金属材料(寧波)有限公司 ● 田中先端有色金属材料(成都)有限公司
- 田中メタロー電工材料(蘇州)有限公司 ● 田中貴金属工業株式会社 香港支店 ● 田中貴金属(上海)有限公司 ● 田中貴金属(上海)有限公司 深圳分公司 ● 田中貴金属(上海)有限公司 蘇州分公司
- 田中貴金属韓国株式会社 ● 田中貴金属(シンガポール)株式会社 ● 田中貴金属(シンガポール)株式会社 マニラ支店 ● 田中貴金属タイランド株式会社
- 田中貴金属インターナショナル(アメリカ)株式会社 ● 田中貴金属インターナショナル(アメリカ)株式会社 サンノゼ支店 ● 田中貴金属ヨーロッパ有限公司 ● 田中貴金属インド株式会社

◆ 田中電子工業株式会社

- 田中エレクトロニクスシンガポール (PTE.) LTD. ● 田中エレクトロニクス(マレーシア) SDN. BHD. ● 田中電子(杭州)有限公司 ● 台湾田中電子股份有限公司
- 台湾田中電子股份有限公司 南科分公司 ● 台湾田中電子股份有限公司 テクニカルセンター

◆ Metalor Technologies SA

- マラン(スイス) ● リス(スイス) ● クルビル・シュル・ユール(フランス) ● サン・フォン(フランス) ● パーミンガム(イギリス) ● ジュロン(シンガポール)
- 東富(中国) ● 吳中(中国) ● 香港(中国) ● 高雄 ● ノース・アトルボロ(アメリカ) ● アトルボロ(アメリカ) ● ポート・ヒューロン(アメリカ) ● サン・ルイス・ポトシ(メキシコ)

◆ Gannon & Scott LLC

- クランストン(アメリカ)
- フェニックス(アメリカ)

◆ Nippon PGM Europe S.R.O.

◆ 成都光明派特貴金属有限公司

2026年6月現在



田中貴金属工業(株)は、ロンドン地金市場協会(LBMA)より金および銀の公認審査会社※1に任命され、ロンドン・プラチナ・パラジウム市場(LPPM)の公認審査会社※2にも任命されており、貴金属の公認溶解業者の溶解技術・分析能力を審査する使命を担っています。

※1 LBMAの公認審査会社は現在7社で、日本では田中貴金属工業(株)が唯一

※2 LPPMの公認審査会社は現在6社で、日本では田中貴金属工業(株)が唯一

田中貴金属の事業

産業用

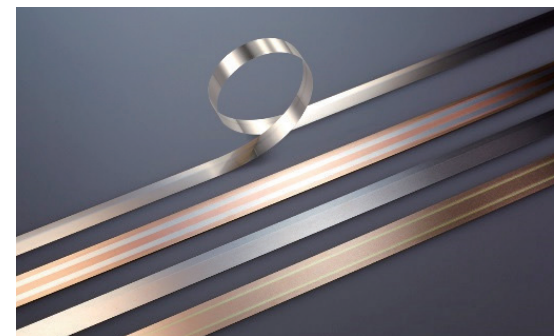
貴金属のプロフェッショナルとして半導体、民生・産業機器、モビリティ、水素社会、メディカルなどさまざまな分野で製品・サービスを提供しています。地金調達から加工、製造、販売、そしてリサイクルまで、貴金属に関わるすべてのバリューチェーンをカバーしています。数多くの世界トップシェア製品と、長年培ってきた貴金属リサイクル・分析技術を誇るリーディング・カンパニーです。



貴金属リサイクル(回収・精製)



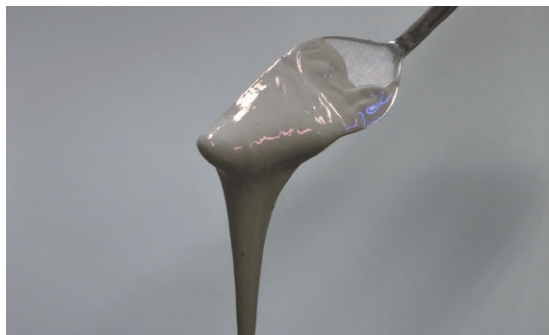
貴金属化合物



クラッド材



ボンディングワイヤ



厚膜ペースト・粉末



白金系加工品



燃料電池用電極触媒



診断薬



研究・技術開発

田中貴金属の事業

資産用

資産を最適に分散し保全するための金・プラチナ商品を提供しています。

地金・コイン

金は6000年の間一度もその価値を失ったことがない唯一の存在であり、世界共通の資産です。

LBMA※1、LPPM※2の公認審査会社でもある田中貴金属工業(株)は、世界最高水準の技術で金地金、プラチナ地金を製造しており、お客様の安心のため、必ず新品の地金のみを販売しています。

また、田中貴金属工業(株)が輸入総代理店として販売している金貨、プラチナコインは、お好みでデザインや大きさをお選びいただけます。美しいデザインは贈り物としても人気があります。

※1 LBMA：ロンドン地金市場協会
※2 LPPM：ロンドン・プラチナ・パラジウム市場



田中貴金属 総合口座

「田中貴金属の純金積立」は、ひとつの口座で月々3,000円から「金」「プラチナ」「銀」を購入するサービスです。未来の安心に向けて、着実に続けられます。

田中貴金属の 純金積立

宝飾用

人生のさまざまなシーンを輝かせる宝飾品を、永く愛するにふさわしい確かな品質でお届けしています。



研究開発

田中貴金属にとって、研究開発は価値創造の源泉です。

広い視野をもって貴金属の可能性を追求し、より豊かな社会、そして美しい地球の未来への扉を着実に開き続けています。

◆第5世代シグナルリレー向け次世代接点「極小クロスバー接点」を開発

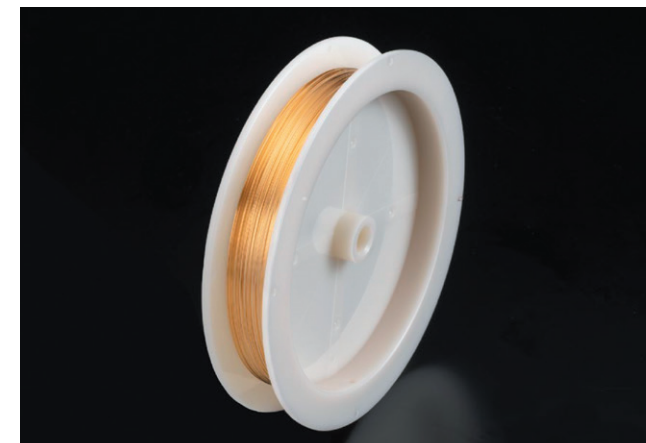
田中貴金属工業(株)は、第5世代シグナルリレー向け次世代接点「極小クロスバー接点」を開発しました。

本製品は、第5世代向けのテープ接点において、最小サイズとなる0.2mm幅を達成しました。小型化が進むリレーにおいて、極小接点を使うことにより接点自体が軽量化し、接点開閉時のバウンスやチャタリング※1を抑制することが期待できます。さらに、接点の小型化は省資源(省地金化)にもつながり、低コスト化も見込めます。

※1 バウンスやチャタリング:

スイッチやリレーにおいて、双方とも意図しない接点の開閉が生じ、誤作動につながる好ましくない現象。

バウンスは、接点の開閉時の衝撃で接点が跳ね、開閉を繰り返す現象を指し、チャタリングは、外部からの振動などで、開閉を繰り返す現象を指す。



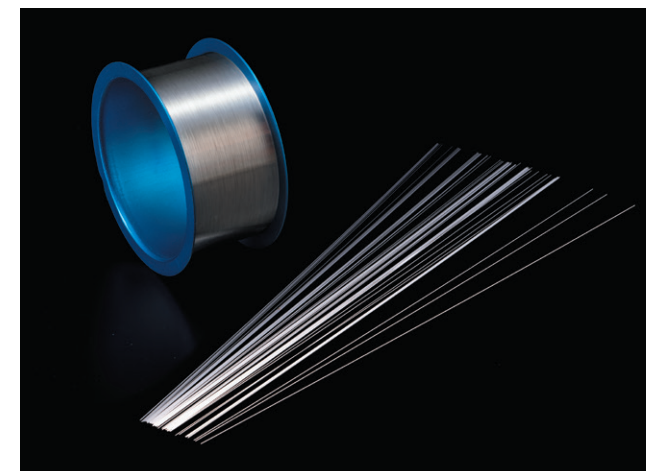
極小クロスバー接点

◆プローブピン用ロジウム材料「TK-SR」を開発

田中貴金属工業(株)では、半導体製造の前工程および後工程で実施される検査装置用としてさまざまな貴金属のプローブピン用材料を製造しています。今回開発した「TK-SR」は、プローブピン用ロジウム材料として、従来のプローブピン向け材料では不可能だった、高強度・高弾性限・高硬度・高導電率を同時に達成しました。そのため、プローブカードにおける長寿命化、低コスト化が期待できます。

従来のプローブピンは、導電率が重要視されていたため、強度・弾性限・硬度が制限されていました。今回、田中貴金属工業独自の加工技術を用いることにより、高強度・高弾性限・高硬度・高導電率を同時に達成する本製品の開発に世界で初めて成功しました。さらに、線径18μmまで提供可能であるため、ますます微細化が進む最先端半導体パッケージの狭ピッチの精密検査にも対応が可能です。

今後も、田中貴金属工業では、ますます拡大していくことが予想される半導体市場の発展への貢献をめざします。



プローブピン材料「TK-SR」

研究開発

◆ 田中貴金属工業、焼結金 (Au) 接合技術「AuRoFUSE™プリフォーム」の転写技術を確立

田中貴金属工業(株)は、焼結金 (Au) 接合技術「AuRoFUSE™ (オーロフューズ) プリフォーム」において、金バンプ※1の転写技術を確立しました。本技術により、複雑な構造の半導体チップやサブストレート※2に対してもAuRoFUSE™プリフォーム (以下、金バンプ) 形成を行うことができます。

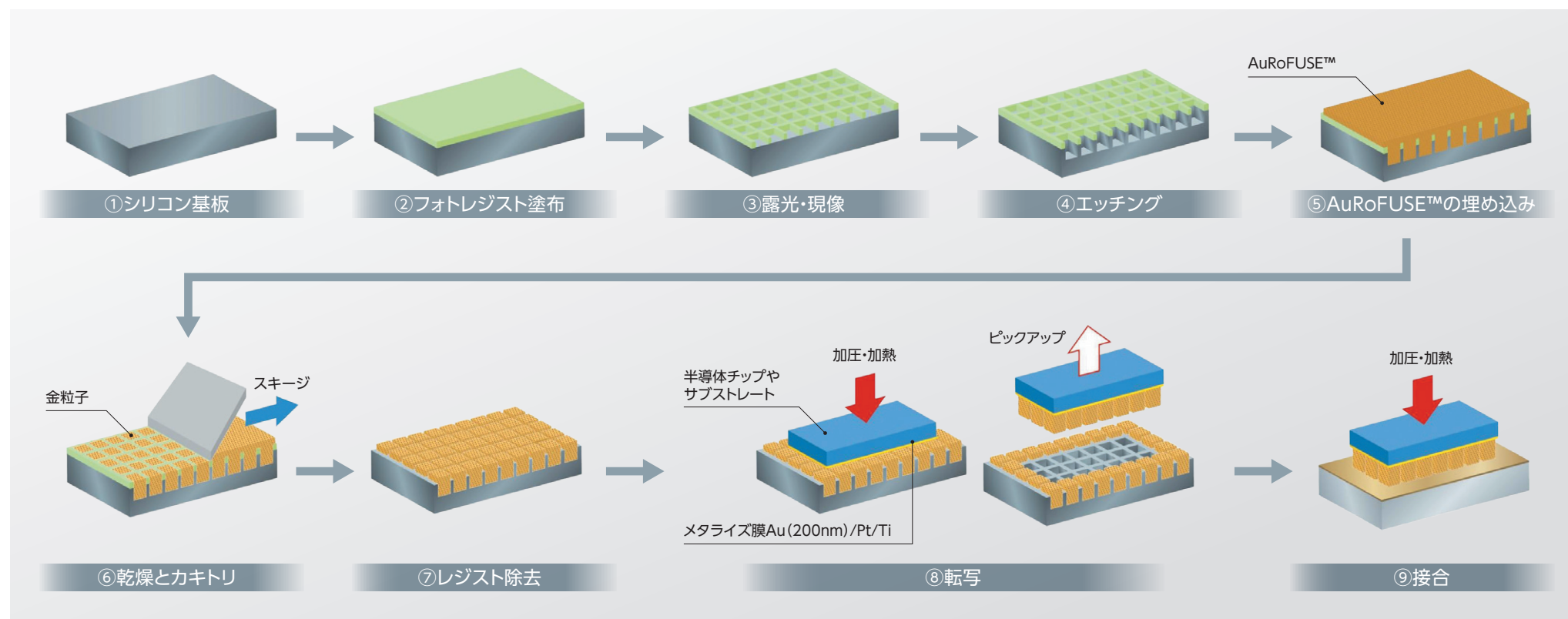
従来の金バンプ形成プロセスは、対象の半導体チップやサブストレートに直接バンプを形成する方法であるため、凹凸や貫通孔など複雑な形状を持つ対象物の場合、レジストの高さが安定しないなどの課題がありました。

今回の転写技術では、目的の箇所にのみ金バンプを転写することができるため、複雑な形状にも適用可能です。また、剥離液などによるダメージが懸念され、フォトリソグラフィ※3工程に申しづらい半導体チップやサブストレートにも対応できるようになります。

※1 バンプ:突起状の電極

※2 サブストレート:半導体チップを搭載し電氣的・機械的に支えるための基板

※3 フォトリソグラフィ:基板上に微細な回路パターンを形成する技術



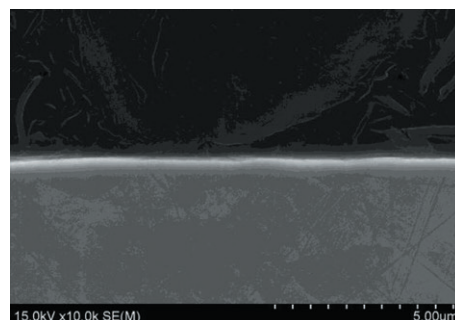
転写基板の作製および転写・接合プロセス

研究開発

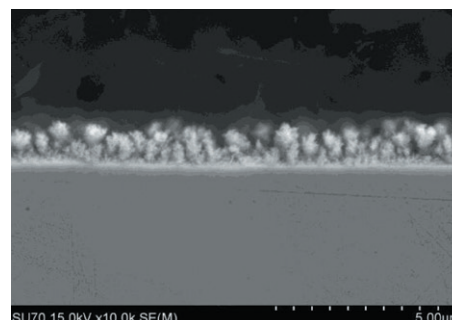
◆ 100℃前後で高い水素透過性能を示す高性能パラジウム水素透過膜の開発に世界で初めて成功

パラジウム水素透過膜は、水素を吸蔵・透過させる特性を持つパラジウム合金を薄膜化した製品で、高純度水素の分離・精製に用いられます。一般的に、金属膜で水素透過を行う場合、高温(300℃以上)で使用する必要がありました。今回、田中貴金属工業(株)は膜の表面に特殊な処理を施すことで、100℃以下の低温領域でも高い水素透過性能を引き出すことができるパラジウム(Pd)水素透過膜「HPM-L111」の開発に成功しました。

100℃以下の低温領域における高純度な水素透過用途として、水素センサー、燃料電池、真空装置の水素除去などが想定されます。水素センサーにおいては、不要なガスを遮断することで検知精度の向上に寄与します。また、真空装置などでは、常温・低温に近い稼働環境を維持したまま内部の水素除去を可能にします。さらに、従来不可欠であった300℃以上の加熱プロセスを不要とし、加熱エネルギーの削減に貢献します。田中貴金属は、本製品の提供を通じて、クリーンかつ効率的な水素社会の実現を支えてまいります。



従来品「PdCu40」の断面図

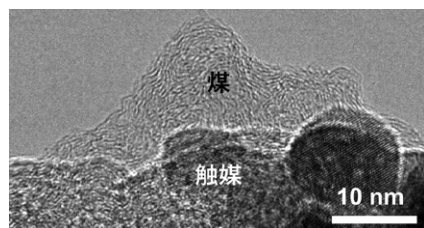


「HPM-L111」の断面図

◆ 煤酸化の反応機構について研究した論文が世界的触媒雑誌に掲載

田中貴金属工業(株)では、さまざまな産業分野で発生した有害ガスを浄化するための酸化触媒を開発しています。有害物質のひとつとしてトラックやバスなどのディーゼルエンジンから発生する煤が知られていますが、実際の触媒上の酸化機構については未解明の部分が多数残っています。

当社は酸化ルテニウム/セリア-ジルコニア触媒上における煤酸化の反応機構について研究し、その論文が世界的な触媒誌であるApplied Catalysis A: Generalに掲載されました。排気ガス中に存在する二酸化窒素が本触媒上に留まり、酸化と還元を繰り返すことで、300℃という低温での煤酸化を促進することが明らかとなりました。本知見は今後の触媒設計に役立てられ、さらなる環境負荷低減への貢献が期待されます。



煤が燃えている様子



RuO₂/CeO₂-ZrO₂(ルテニウム/セリア-ジルコニア)触媒

◆ 知的財産の創出と保護

発明、考案、意匠、商標、著作物などの知的財産およびノウハウは、企業の重要な財産であるとの認識のもとに、積極的な創出に努めています。新技術の研究、製品・商品の開発、生産および販売にあたっては、第三者の知的財産権を尊重し、侵害行為に対しては各国の法令に則って厳正に対処しています。また、知的財産への意識向上のため、技術部門を中心に年間を通して知的財産教育を実施しています。





品質と信頼

「よい物」をお客様にお届けすることが、田中貴金属の信条です。

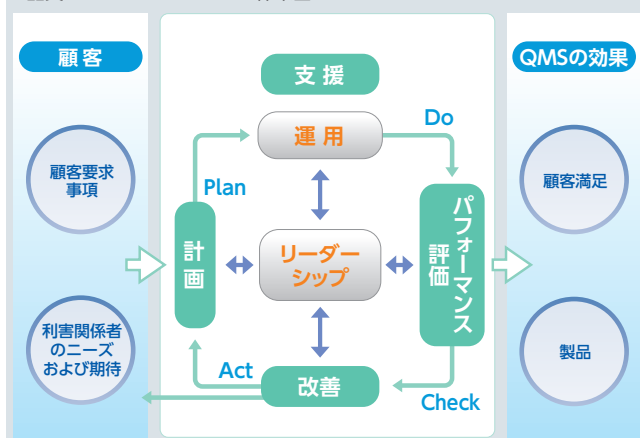
製品自体の品質はもちろん、製品をつくる過程で労働、人権、環境、安全・衛生、倫理などにも配慮しています。

◆ 品質マネジメントシステムの構築

田中貴金属の全工場で、ISO9001に基づく品質マネジメントシステム(QMS)を構築し運用しています。

お客様からの多様な要求品質に対して迅速に対応し、満足いただける安全で安心な製品を継続的に提供するため、QMSの有効性をレビューするとともに、自動車業界向けQMSであるIATF16949の要求事項を反映させるなど、システムの改善に取り組んでいます。

●品質マネジメントシステムの体系図



◆ 顧客満足度調査

田中貴金属では2016年度より「顧客満足度調査」を実施しています。本調査は、国内外の産業用ビジネスのお客様より毎年アンケートにご回答いただくことで当社に対する真のご要望やご不満を把握し、さまざまな改善に役立てることを目的としています。

2025年度は230社のお客様よりご回答をいただき、平均76.6点(満点:100点)でした。2016年度の調査開始時は平均61.2点でしたが、近年は安定して75点以上の評価を受けています。今後もお客様の満足度向上に向けてさまざまな改善を進めます。

◆ 顧客からの評価

お客様の生産活動を支える田中貴金属の取り組みに対して、さまざまなお客様から表彰などの形で評価をいただいています。

【2025年度】お客様からの主な表彰

表彰を受けた会社名 および工場・拠点名称	お客様名	受賞名	表彰を受けた理由
田中貴金属工業株式会社 名古屋支店	株式会社キャタラー	2024年 品質賞	納入不良ゼロ、および安全/供給/技術面などの 仕入先評価によるプロセス評価で 当社基準を満足する高評価の仕入先
田中貴金属工業株式会社 名古屋支店	日本特殊陶業株式会社	VA提案賞	多岐にわたるVA提案内容などを 総合的に評価
田中貴金属工業株式会社 香港支店	厦门宏发电子股份有限公司 XIAMEN HONGFA ELECTROACOUSTIC CO.,LTD.	優秀サプライヤー賞	製品品質と管理の総合レベルが優れており、 現地生産を積極的に推進
台湾田中電子股份有限公司(TET)	ASE HOLDINGS	Appreciation for GHG Inventory Project	当社の温室効果ガスインベントリー プロジェクトに参画し、 第三者検証を取得
田中電子(杭州)有限公司 (TEC)	Renesas Semiconductor (Beijing) Co.,Ltd.	2025ベスト協力賞	高品質、優れたサービス、 および継続的な協力への感謝

品質と信頼



◆ 責任ある調達活動を実現するためのサプライチェーン・マネジメント

田中貴金属は、CSR(企業の社会的責任)を果たすため、取引先様のご協力のもと、労働、人権、環境、安全・衛生、倫理などに配慮した責任ある調達活動を推進しています。鉱物調達については個別に活動方針を制定し、厳正な対応を行っています。

○「責任ある調達」の推進

主要な取引先様に対して、「RBA行動規範」※1の周知と、同規範への遵守状況の確認を目的に、CSRセルフアセスメントの実施をお願いしています。また、アセスメント結果や当事業業への影響などを勘案し、リスクが高いと判断した取引先様には、訪問調査を併せて行っています。2025年度は258社に対してCSRセルフアセスメントを依頼し、取引先様の自主的な改善を促しました。重大な問題を特定した取引先様はありませんでした。

○「責任ある鉱物調達」の推進

田中貴金属においては、「田中貴金属 責任ある鉱物調達方針」※2に基づき、紛争地域および高リスク地域における、強制労働や児童労働をはじめとする人権侵害、非政府武装集団に対する直接的または間接的支援、贈収賄、鉱物原産地の詐称、マネー・ロンダリングなどに関与する取引を回避し、かつ労働者の安全・衛生や環境保護に配慮した責任あるサプライチェーンの構築をめざしています。

3TG(金、タンタル、タングステン、すず)、コバルト、マイカ、ニッケル、リチウム、グラファイト、銅を含有した原材料の調達については、RMI※3が提供する、サプライチェーン上のリスク確認を行うための標準調査テンプレート「CMRT」「EMRT」を使った調査を実施しています。2025年度は68社に対して評価を行い(マイカを除く)、リスクありと判断した取引先様については、改善依頼を行いました。

金、銀、白金、パラジウム、ロジウムについては、貴金属のサプライチェーンにおける責任ある調達を確保するための国際的なガイドラインである「LBMA※4/LPPM※5レスポンシブルガイドランス」に基づくデューデリジェンスを行い、指定第三者機関による監査を受け、毎年同協会・市場より「LBMA/LPPMレスポンシブル認証」を取得しています(ロジウムは2026年1月よりガイドランスの対象として追加)。2025年度は、リスクベース・アプローチに基づき、807社に対してデューデリジェンスを行いました。リサイクル材を含む貴金属原料の調達にあたっては、取引先様がCSRの観点からリスクを抱えていないかを慎重に精査し、責任ある原材料管理を実現しています。

○業界団体への参加を通じた情報収集強化

田中貴金属は、業界団体であるJEITA(電子情報技術産業協会)の「CSR委員会」および「責任ある鉱物調達検討会」に参加しています。「CSR委員会」傘下の「責任あるサプライチェーンWG」では、2025年度に中小企業の人権尊重の取り組みを支援するための講演会やワークショップを開催しました。「責任ある鉱物調達検討会」では、各種団体・企業との情報共有会や、メンバー同士の意見交換会を継続的に行っており、毎年6月にはJEITA会員企業向けの「責任ある鉱物調達説明会」を開催し、国際動向やRMI標準調査テンプレートの改正について解説しています。

◆ サステナビリティに関する外部評価

田中貴金属は、外部評価への継続的な対応を通じて、企業活動が国際基準に則ったサステナブルなものであることを確認し、その信頼性の確保に努めています。

○「RBA行動規範」への対応

「RBA行動規範」に沿った「田中貴金属 行動憲章・行動規範」を策定し、役職員一人ひとりが日常業務の中で、労働、人権、環境、安全・衛生、倫理などの社会的責任を果たすことを定めています。毎年、数多くのお客様からのCSR調査に対応しているほか、複数の工場がRBA認定第三者機関による監査やお客様直接の監査を受けています。

○EcoVadis※6メダルの取得

EcoVadisによるCSR評価(「環境」「労働と人権」「倫理」「持続可能な資材調達」)を毎年受けています。2025年度は、ブロンズメダルを取得しました。



※1 RBA(責任ある企業同盟)が提唱する、労働、安全・衛生、環境、倫理、マネジメントシステムの5つのセクションで構成された行動規範
<https://www.responsiblebusiness.org/code-of-conduct/>

※2 責任ある鉱物調達方針
<https://www.tanaka.co.jp/sustainability/sourcing-policy/>

※3 RMI:責任ある鉱物イニシアティブ

※4 LBMA: ロンドン地金市場協会

※5 LPPM: ロンドン・プラチナ・パラジウム市場

※6 EcoVadis: 世界185か国、250業種、15万社以上の団体・企業の評価を行うCSR評価機関。「プラチナ」「ゴールド」「シルバー」「ブロンズ」の4つのメダルのほか、「コミットメント」「ファーストムーバー」の2つのバッジを合わせた6段階の評価ランクがある。
(株)田中貴金属グループの表彰ページ
https://recognition.ecovadis.com/1Xiv-yOxVvKACac6qfVar0_g



LBMA レスポンシブル・ゴールド認証



LBMA レスポンシブル・シルバー認証



LPPM レスポンシブル・プラチナ・パラジウム認証

地球環境を守る

美しい地球を未来へ継承することは、国際社会共通の課題であり、大きな挑戦でもあります。

田中貴金属は、事業活動による環境への負荷を最小化するために、あらゆる可能性を追求しています。

◆ 2050年カーボンニュートラル宣言

2022年4月に「田中貴金属 カーボンニュートラル宣言」を表明し、2050年にCO₂排出量実質ゼロをめざすことを宣言しました。また、社長をプロジェクトリーダーとする全社横断プロジェクトチームを立ち上げ、工場でのエネルギー効率の向上や脱炭素社会に貢献する製品開発など、カーボンニュートラルの実現に向けた対策を進めています。

田中貴金属 カーボンニュートラル宣言

田中貴金属は、地球温暖化という地球規模の社会課題に対し、2050年までにカーボンニュートラルの達成を掲げ、脱炭素社会に資する技術を自らそして社会に積極的に実装していくことで、地球温暖化問題の解決に挑戦します。

事業活動に伴う温室効果ガスを削減するために、自社工場・事業所では、エネルギー効率の向上と製造プロセスの改善、使用するエネルギーのグリーン化など、排出量削減の活動を継続的に実施していきます。

同時に、温室効果ガス削減に貢献する触媒やEV化等に伴う高性能材料など脱炭素社会に向けて取り組むお客様のご期待に応える製品を提供いたします。さらには貴金属リサイクルビジネスの強化によって循環型社会へ貢献することで、豊かでサステナブルな地球の未来を私たちの手で創り出します。

また、「TANAKAの森」を創るなど、植林や森林の再生を保全する活動も視野に入れて進めていきます。

田中貴金属はこれらの活動を通してカーボンニュートラルをめざします。

2022年度より社長直轄の全社横断的なプロジェクトチームを結成し、具体的な対応策を検討し実行していきます。これからも田中貴金属は、貴金属独自の特性を活かした製品・ソリューションを通じ、お客様はもとより社会全体に価値を提供していきます。



田中貴金属
カーボンニュートラル宣言

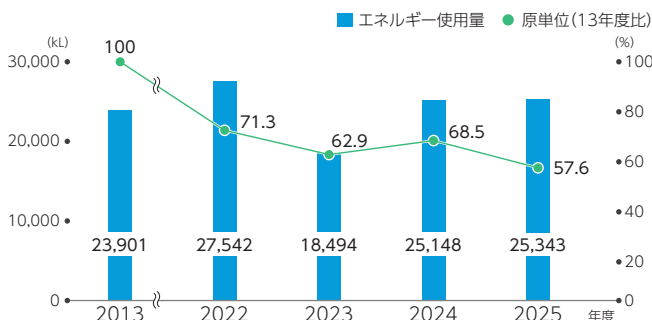
<https://www.tanaka.co.jp/sustainability/carbon-neutral/>

◆ 地球温暖化防止の取り組み

田中貴金属では、エネルギー原単位を毎年1%改善する目標を定めています。2025年度のエネルギー原単位は前年度比15.9%減(2013年度比42.4%減)、CO₂排出量は前年度比1.0%増となりました。

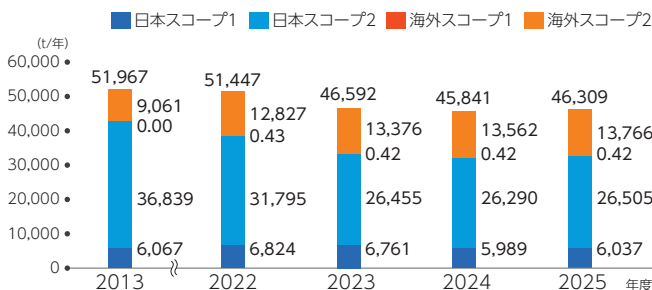
全社目標 » エネルギー原単位を毎年1%改善

● エネルギー使用量、原単位の推移(田中貴金属 国内・海外)



※エネルギーは電気、ガスなどを原油換算して算出。原単位は損益計算書の売上総利益を分母として算出。2023年度は4月～12月の9か月分の実績値。

● CO₂排出量の推移(田中貴金属 国内・海外)



※スコープ1(燃料の使用等による直接排出)、スコープ2(電気等の使用による間接排出)。各工場・事業所が立地する地域の電気事業者別CO₂排出係数を年度ごとに使用して算出。海外拠点については各国・地域の平均CO₂排出係数を使用して算出。

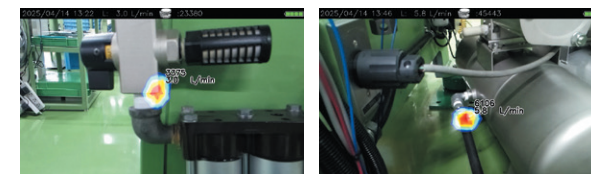
● 2025年度事業所別のCO₂排出量(田中貴金属 国内・海外)

事業所名	CO ₂ 排出量(t)
田中貴金属工業(株)湘南工場	7,655
田中貴金属工業(株)富岡工場	6,137
田中貴金属工業(株)袖ヶ浦工場	4,060
田中貴金属工業(株)平塚工場	4,019
田中貴金属工業(株)市川工場	3,759
田中メタロー電工材料(蘇州)有限公司	3,228
田中貴金属工業(株)伊勢原工場	3,087
田中貴金属工業(株)筑波事業所	3,042
田中電子(杭州)有限公司	2,324
田中エレクトロニクス(マレーシア) SDN. BHD.	1,649
台湾田中電子股份有限公司	1,473
その他	5,875

TOPICS

エアー漏れ対策による省エネ活動

田中貴金属工業(株)平塚工場では、2025年度より超音波を利用したエアーリーク検知器を導入しています。エアー漏れ対策を実施することで、年間約17,000kWhの省エネルギー効果を見込んでいます。



配管やバルブなどの接続部分からのエアー漏れを検知



地球環境を守る

TOPICS

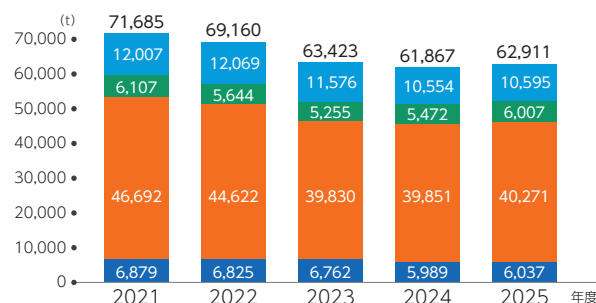
グローバルCO₂排出量を算出

グループ会社であるMetalor Technologies SAと田中貴金属(国内・海外)のCO₂排出量を合計したグローバルCO₂排出量の推移を示します。

今後もグループ全体でCO₂排出量の削減に取り組めます。

●CO₂排出量の推移(グローバル) 単位:t

■田中貴金属スコープ1 ■田中貴金属スコープ2
■Metalorスコープ1 ■Metalorスコープ2



スイス工場におけるエネルギー監査

Metalor Technologies SAのマラン工場(スイス)では、2018年度からエネルギー監査を実施しています。2019年度から2027年度までの行動計画に基づき、スイスの民間非営利組織との目標協定書に署名し、27の主要な対策が選定・承認されました。

2025年度には行動計画が更新され、ネットゼロ達成に向けた2030年度から2050年度までのロードマップが策定されました。スコープ1排出量を2025年度比で31%(453トン)削減するための7つの主要な対策が盛り込まれています。



目標協定書

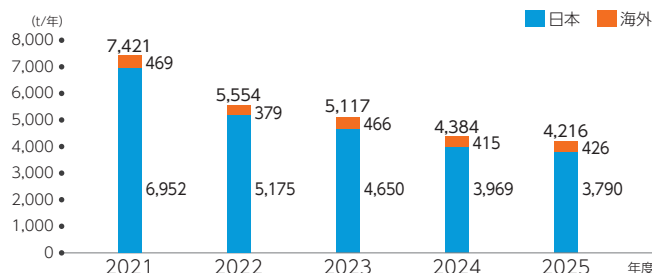
◆産業廃棄物の削減

田中貴金属は、産業廃棄物排出量を毎年1%削減する目標を定めています。2025年度は産業廃棄物排出量が前年度比3.8%減となりました。

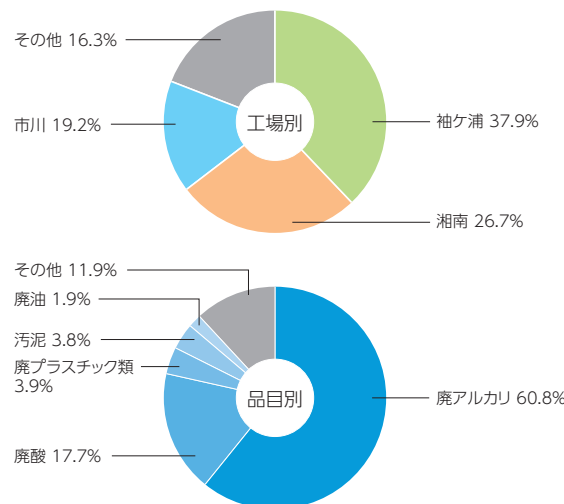
事業拡大に伴う廃棄物の発生を抑制できるよう、さらなる対策を進めます。

全社目標 》 産業廃棄物排出量を毎年1%削減

●産業廃棄物排出量の推移(田中貴金属 国内・海外)



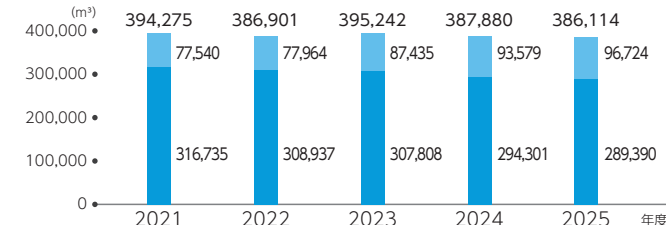
●産業廃棄物排出量の内訳(2025年度)(田中貴金属 国内・海外)



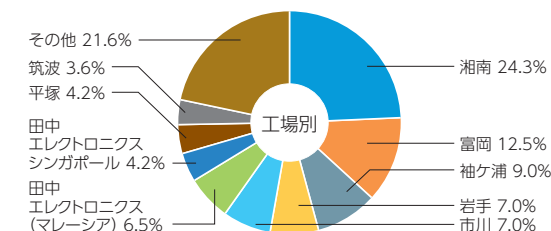
◆水使用量の削減

排水処理などを通じて、事業活動における水使用量の削減に努めています。取水量を工場別にみると、湘南工場、富岡工場、袖ヶ浦工場、岩手工場で全体の約半分を占めています。

●取水量の推移(田中貴金属 国内・海外)



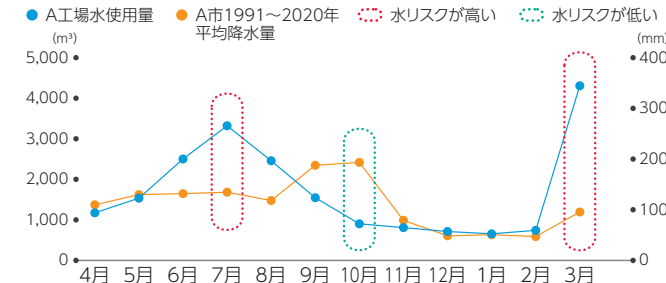
●取水量の内訳(2025年度)(田中貴金属 国内・海外)



○水リスクの把握

全工場の立地地域における平均降水量を把握しています。降水量の少ない時期を水リスクが高まる期間と想定し、水使用量の削減をめざしています。

●水使用量(左軸)と平均降水量(右軸)の相関(例)



過去30年間の平均降水量と、前年度の水使用量実績の推移を比較し、水リスクが高い時期と低い時期を特定



地球環境を守る

◆ 環境異常撲滅活動

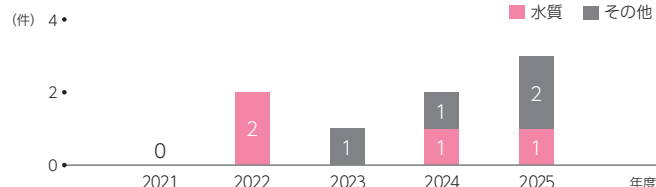
水質汚濁、大気汚染などを未然に防止するため、法規制値よりもさらに厳しい社内自主基準値を設定しています。この自主基準値を超過した場合を「環境異常」と定義しており、さまざまな未然防止活動・再発防止対策を行っています。

● 主な社内ルール

	項目	内容
通常管理	自主基準値管理	法基準の50%を自主基準値として設定
異常対応	環境異常速報	異常事態が発生した際の早期情報伝達 (原因分析と対策は環境専門部会で確認)
	通報・届出基準	異常発生時における関係行政への通報・届出に関する基準

※環境異常の定義：法規制違反、自主基準値オーバー、近隣クレームなど

● 環境異常発生件数



◆ EEJAで土壌汚染が発生

2025年2月にEEJA(株)の敷地内で土壌汚染対策法の基準値を上回るふっ素が検出されました(検出値:0.83mg/L、法基準値:0.8mg/L)。速やかに関係当局へ報告するとともに拡散防止措置を講じました。

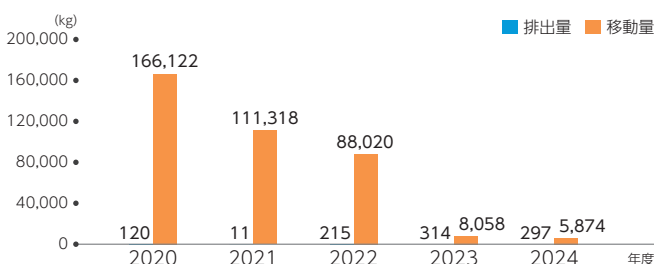
なお、周辺環境への影響は確認されていません。今後も当局の指示に従い改善に努めてまいります。

◆ 環境汚染の防止

「特定化学物質の環境への排出量の把握等及び管理の改善の促進に関する法律(PRTR法)」に基づく対象物質について、環境への排出量および事業所外への移動量を国に届け出しています。

今後も環境汚染を防止するため、事業活動における化学物質の適切な管理に努めます。

● PRTR対象物質の全排出量・移動量(日本国内)



※すべて4月～翌年3月の実績。2025年度実績は次回CSR報告書で開示予定

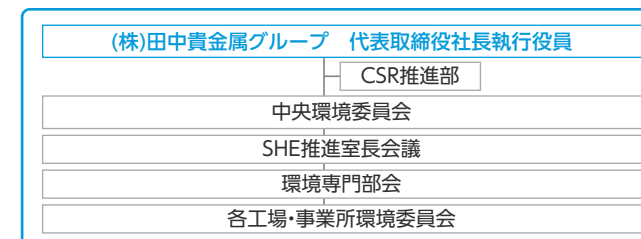
◆ 環境マネジメントシステム

国内外の生産拠点で環境マネジメントシステムISO14001の認証を取得し、環境保全活動を実施しています。

また、環境保全活動を着実かつ円滑に推進するために、各工場・事業所長で構成される中央環境委員会を最上位としたグループ組織体制を構築しています。さらに、SHE※推進室長会議、環境管理者で構成される環境専門部会を定期的に開催し、情報共有および積極的な意見交換を重ねています。

※SHEは、英語の「安全、衛生、環境」の頭文字です。

● 環境保全推進体制



● ISO14001認証取得事業所一覧

(取得年月)

田中貴金属工業株式会社			
湘南工場	2000年 10月	岩手工場	2005年 1月
市川工場	2002年 5月	伊勢原工場	2005年 3月
テクニカルセンター	2002年 5月	富岡工場	2005年 3月
平塚工場	2002年 10月	筑波工場	2013年 12月
田中エレクトロニクス(マレーシア) SDN. BHD.			1999年 6月
田中電子工業株式会社 佐賀本社工場			1999年 8月
田中エレクトロニクスシンガポール (PTE.) LTD.			1999年 12月
EEJA株式会社			2000年 11月
田中電子(杭州)有限公司			2005年 2月
台湾田中貴金属工業股份有限公司			2010年 5月
台湾田中電子股份有限公司			2013年 3月
田中先端有色金属材料(寧波)有限公司			2019年 1月



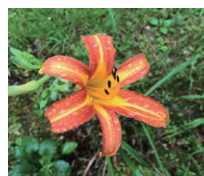
地球環境を守る

◆ 生物多様性保全

2020年度より、希望する従業員の自宅や工場・事業所の敷地内でノカンゾウ、ハマカンゾウを育てて、増えた株を元の生息地である鶴見川の川辺（神奈川県横浜市）と小網代の森（神奈川県三浦市）に返還しています。毎年夏になると美しいノカンゾウ、ハマカンゾウの花が咲くようになりました。

<この活動の目的>

川辺や公園などに繁茂する「ネズミホソムギ」は花粉症の原因として知られ、草刈りでの除去は困難です。そこで、在来種であり地域の希少種でもあるノカンゾウ、ハマカンゾウなどで代替（グランドカバー）することで、ネズミホソムギ群落の抑制をめざしています。ハマカンゾウは盗掘被害に遭うことがあるため、安全な従業員の自宅や工場・事業所内での保護・育成を行っています。



従業員宅で咲いたノカンゾウ



増えた株を梱包してNPOへ郵送



届いた株を元の生息地へ移植



現地で咲いたノカンゾウ

TOPICS

フルヤ金属とハマカンゾウの合同返還式を開催

2023年度より田中貴金属、株式会社フルヤ金属、NPO法人小網代野外活動調整会議の三者で生物多様性保全活動の連携を進めてきました。

この連携の一環として、2026年6月6日に小網代の森で両社によるハマカンゾウの合同返還式を開催しました。当日は、田中貴金属から71株、フルヤ金属から31株のハマカンゾウが返還されました。



左から(株)フルヤ金属総務・CSR部 大村道生部長、NPO法人小網代野外活動調整会議 岸由二代表、(株)田中貴金属グループCSR推進部 藤枝一也

生物多様性保全活動の従業員参加者(実人数)が300人を突破!

田中貴金属では、2018年度から本格的に生物多様性保全活動を開始しました。当社では、従業員と家族が楽しみながら生物多様性の保全にも貢献できる取り組みをめざしています。

活動の2本柱は、自宅や工場敷地でのノカンゾウ、ハマカンゾウの保護・育成と、育てたノカンゾウ、ハマカンゾウを元の生息地に返還するボランティアエコツアーです。これらの活動に参加したことのある従業員の実人数が2025年度に300人を突破しました。ここ数年は日本国内の従業員数が約3,000人で推移していますので、参加者が1割を超えたことになります。

今後も従業員が楽しみながら参加できる取り組みを進めていきます。生物多様性保全活動の参加人数については29ページをご覧ください。

2026年6月に、小網代の森ボランティアエコツアーを開催しました。当日は従業員および家族の計61名が参加し、ハマカンゾウの保全作業を行いました。また、森や干潟の散策を行いました。

<この活動の目的>

2011年3月に発生した東日本大震災の際、小網代湾も数度の津波に襲われました。このとき、小網代の森で海沿いに生息していたハマカンゾウの群落がほぼ全滅しましたが、残っていた28株を保護し、群落として復元する作業をNPO法人小網代野外活動調整会議が進めています。この活動を複数の企業が支援しており、田中貴金属も2018年度より参加しています。



森の散策



干潟でチゴガニの求愛ダンスを観察



従業員と家族でハマカンゾウを移植



地域・社会への貢献

田中貴金属は、事業活動を通じてご縁が生まれる地域や国がより健やかで豊かになるように、自らができる貢献をめざしています。会社としての支援、従業員によるボランティアの両面から、継続性を大切にする活動を各地で展開しています。

スポーツ振興

◆「東京都スポーツ推進企業」の認定

(株)田中貴金属グループは、従業員の健康促進や社内コミュニケーションの活性化をめざしたスポーツ活動を推進しています。

その他、2012年から日本パラスポーツ協会(JPSA)のオフィシャルパートナー、2017年からは日本ブラインドサッカー協会(JBFA)とブラインドサッカー女子日本代表への協賛を通じて、障がい者スポーツ・パラアスリートの支援と障がい者スポーツへの理解促進に向けた活動を行っています。

これらの活動が評価され、2015年度より「東京都スポーツ推進企業」の認定を受けています。



◆障がい者スポーツへの支援・参加

「LIGA.iブラインドサッカートップリーグ2025年」(主催:日本ブラインドサッカー協会)に、カテゴリースポンサー(表彰・セレモニー)として協賛しました。チーム・選手に授与されるリーグ杯・メダル・記念品の提供、ならびに表彰式・セレモニー運営への協力を通じて、国内外におけるブラインドサッカーのさらなる発展に寄与します。

©Haruo.Wanibe/JBFA



優勝したfree bird mejirodai



人材育成

◆おしごと年鑑

文部科学省が推奨するキャリア教育の一環として、小中学校の授業で活用されている教材『おしごと年鑑2025』で貴金属に関する内容を紹介しています。

次世代を担う子どもたちに向けて、社会における貴金属の役割やその仕事の魅力を伝えることを目的に、『「金」のジュエリーや工芸品はどうやってつくるの?』『「金」って何がすごい?』『都市鉱山って何?』という3つのテーマで貴金属の特性や活用、リサイクルの重要性などを取り上げています。





地域・社会への貢献

◆ 田中貴金属記念財団

◇ 貴金属に関わる研究助成金

本制度は、貴金属が貢献する新しい技術や研究・開発を支援するため、1999年度から毎年実施しています。26回目となる今回は、合計244件の応募があり、19件の研究に対し総額1,980万円の研究助成金を給付しました。

Umekichi Tanaka Award(1,000万円)	なし
Ichiro Tanaka Award(300万円)	2名
Innovative Precious Metals Award(100万円)	4名
Hirameki Award(30万円)	16名
Kirameki Award(100万円)	5名

◇ 学生応援活動

2018年度～2021年度

奨学金給付の実施(東北大学様)

2021年度～食で応援企画

「100円朝食」「50円ドーナツ」

2025年度～夕食で応援企画

「ご褒美ディナー(牛丼)」「マグロ解体ショー&まぐろ丼」



全国七大学総合体育大会

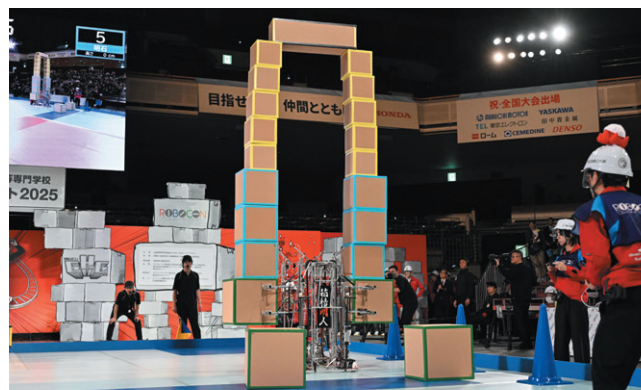
- 第61回 優勝トロフィーと大会ピンバッジ進呈
- 第62回 MVPトロフィーと大会ピンバッジ進呈
- 第63回 MVPトロフィーと大会ピンバッジ進呈、撮影機材の提供
- 第64回 MVPトロフィーと大会バナー進呈、撮影機材の提供



◆ 「高専ロボコン」協賛

アイデア対決・全国高等専門学校ロボットコンテスト(高専ロボコン)は、若者たちが既成概念にとらわれず「自らの頭で考え、自らの手でロボットを作る」ことの面白さを体験し、発想することの大切さ、ものづくりの素晴らしさを共有する全国規模のイベントです。全国の高専学生が毎年異なる競技課題に対し、アイデアを駆使してロボットを製作し、各地方大会から全国大会をめざします。

田中貴金属では、2012年度から高専ロボコンに協賛し、日本の未来の技術者を応援しています。



◆ スポーツ振興活動

東京マラソン2026では、男女マラソンおよび車いすマラソン男女の入賞者に贈られる金、銀、銅メダルを提供しました。「東京がひとつになる日。」というコンセプトに基づき、メダルの表面には「走る人・支える人・応援する人」を表す大会ロゴパターン、裏面には点字で大会名が刻まれています。

田中貴金属は2007年度から毎年メダルを製作しており、今後もスポーツ振興に貢献していく予定です。





一人ひとりの活躍

多様性を増す従業員一人ひとりが輝ける職場環境づくりは、田中貴金属の将来にとって欠かせません。
すべての従業員が活躍できるように、さまざまな切り口から職場環境の整備に取り組んでいます。

◆働き方・休み方改革と多様な従業員の活躍

田中貴金属では、多様な従業員がいきいきと働ける職場環境づくりをめざしています。その一環として、働き方や休み方の見直しと改善に、複合的なアプローチで取り組んでいます。

◆年次有給休暇

2019年4月から施行された「働き方改革関連法」に対応するため、グループ全体で取り組んでいます。2025年度より「年次有給休暇7日以上取得」を目標に掲げ、全工場・事業所で達成しました。

日本国内	2024	2025
年次有給休暇(5日以上)取得率	100%	100%
年次有給休暇平均取得日数	13.8日	14.4日
(製造部門)	14.1日	14.3日
(間接部門)	13.6日	14.7日
平均残業時間	12.47時間	18.50時間
平均勤続年数 男性	15.6年	15.7年
平均勤続年数 女性	14.4年	14.3年
介護休暇取得者数	4名	8名
介護短時間勤務取得者数	1名	4名

◆男女の賃金の差異(2025年度)(日本国内)

会社	区分	男女の賃金の差異
田中貴金属工業(株)	総合職社員	79.59%
	有期雇用社員	75.02%
	全労働者	68.53%
田中貴金属 リテイリング(株)	総合職社員	72.21%
	有期雇用社員	66.07%
	全労働者	63.88%
田中電子工業(株)	総合職社員	78.18%
	有期雇用社員	84.20%
	全労働者	66.33%
EEJA(株)	総合職社員	72.87%
	有期雇用社員	86.43%
	全労働者	71.86%
(株)田中貴金属 グループ	総合職社員	75.72%
	有期雇用社員	110.31%
	全労働者	77.11%

- 対象期間 2025年1月1日～2025年12月31日
- 常用労働者数101名以上の国内グループ会社
- 女性の平均年間賃金÷男性の平均年間賃金により割合を算出
- 総合職社員・有期雇用社員ともに複数の従業員区分を設定しているが、それぞれの従業員区分における給与処遇・評価基準については男女同一のものを適用

会社	区分	男女の賃金の差異
全社	総合職社員	80.38%
	有期雇用社員	78.83%
	全労働者	70.71%

- 対象期間 2025年1月1日～2025年12月31日
- 女性の平均年間賃金÷男性の平均年間賃金により割合を算出
- 総合職社員・有期雇用社員ともに複数の従業員区分を設定しているが、それぞれの従業員区分における給与処遇・評価基準については男女同一のものを適用

◆介護と仕事の両立支援

従業員が介護と仕事を両立できる職場環境を整備するため、さまざまな取り組みを実施しています。

1. 法定を超える制度

【介護休業】

要介護状態にある家族1人につき365日まで取得することが可能です。

【介護短時間勤務】

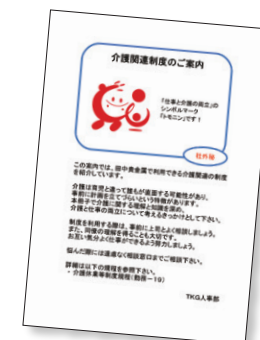
勤務時間は原則6時間、本人の希望により5時間まで短縮することが可能です。

2. 相談窓口の設置

社内外に相談窓口を設置し、介護に関する従業員の相談に対応しています。

3. 従業員への情報提供

従業員が介護に直面する前から介護に関する情報を得られるよう、年齢別研修でハンドブックを配付し情報提供を実施しています。また実際に介護に直面したとき・40歳到達時には、介護関連の会社制度をまとめたリーフレットを従業員とその上司に配付することで、制度利用の促進と利用しやすい雰囲気づくりに取り組んでいます。



一人ひとりの活躍



◆ 子育てと仕事の両立支援

従業員が子育てと仕事を両立できる職場環境を整備するため、法令で定められている以上にさまざまな取り組みを行っています。今後も働き方改革とワーク・ライフ・バランスの観点から、従業員の子育てと仕事の両立支援に取り組めます。

1. 法定を超える制度

【配偶者出産時の特別有給休暇】

配偶者が出産した場合には、入院・退院・届出に充てるため、特別有給休暇を3日間取得することが可能です。

【育児休業】

原則1歳6か月(条件を満たした場合は最長2歳)まで取得することが可能です。

【育児短時間勤務】

最長で子が小学6年生の3月31日まで適用されます。

勤務時間は原則6時間、本人の希望により5時間まで短縮することが可能です。

【子の看護休暇】

最長で子が小学6年生の3月31日まで取得することが可能です。

【始業・終業時刻の繰下げ】

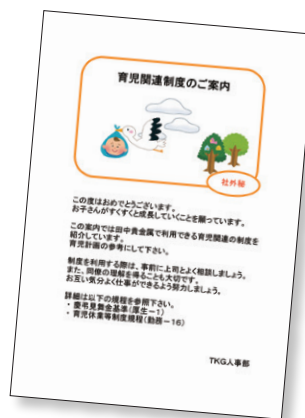
最長で子が小学6年生の3月31日まで適用されます。

始終業時刻を15分ごと、最大1時間まで繰り下げることが可能です。

2. 男性の育児休業等取得促進

配偶者が出産した従業員とその上司へのリーフレット配付や、役職者研修での冊子の配付を通じて、育児に関連する会社制度の周知および制度を利用しやすい雰囲気づくりに取り組んでいます。男性の育児休業取得者は2016年度以降増加傾向となっています。2025年度は57名が育児休業を取得するなど、取り組みの成果が少しずつ表れています。(28ページ参照)

今後も従業員の子育てと仕事の両立支援に向けた取り組みを拡充します。



◆ 主体的な配慮やサポートができる人材育成

茅場町本社およびEEJAにおいてユニバーサルマナー検定3級講座を実施しました。2025年度は合計48名の従業員が参加し、多様な方への理解を深める機会となりました。

ユニバーサルマナー検定は、障がいのある方、高齢の方、お子様をお連れの方など、さまざまな状況の方々に対して、どのような配慮やサポートができるかを体系的に学ぶプログラムです。当日は本検定を実施する(株)ミライコ講師による座学に加え、4～6名のグループに分かれてのディスカッションや発表を行いました。参加者は積極的に意見交換を行い、互いの考えや気づきを共有しながら理解を深め、検定終了後には、参加者一人ひとりに認定証が授与されました。

多様性への理解を促進し、従業員一人ひとりが主体的に行動する風土の醸成に向けて、今後も本取り組みを継続します。



一人ひとりの活躍



◆ 心理的安全性のある職場づくり

多様性への理解を深め、心理的安全性の高い職場環境の実現を目的として、全従業員を対象に「多様性理解研修」を実施しました。本研修では、田中貴金属における障がい者雇用の取り組みに加え、LGBTQ+への理解促進をテーマに、SOGIハラの防止、社内制度の活用方法、そしてALLY(アライ)としての在り方などについて学びました。研修後には多様なバックグラウンドを持つ人々が安心して働くために一人ひとりの関心と行動が重要であるなどの声が寄せられています。

今後も、LGBTQ+の方々や障がいのある方々に限らず、すべての従業員が安心して働ける環境の整備に向けて、継続的な情報発信と研修機会の提供を進めていきます。



◆ 一人ひとりのやりがいと成長のために

イノベーション創出には意思決定層の多様化が不可欠であるとの認識のもと、まずは最大のマイノリティである女性に焦点を当てた「女性管理職育成プログラム」を実施しました。2026年度は、女性マネージャーおよびリーダー層を対象とした研修を実施し、計91名が参加しました。

本研修では、参加者同士の相互理解やネットワークの形成を進めるとともに、管理職としての視野を広げ視座を高めることで、各自が組織の成長に寄与するリーダーとして主体的に行動する意識を醸成しています。

今後も、互いを尊重し心理的安全性の高い組織のもと、従業員一人ひとりがやりがいと幸福感を持ちながら自律的に成長し、自らの力を活かして価値創出や組織の発展に関わっていけるよう、継続的に学びの機会を提供していきます。



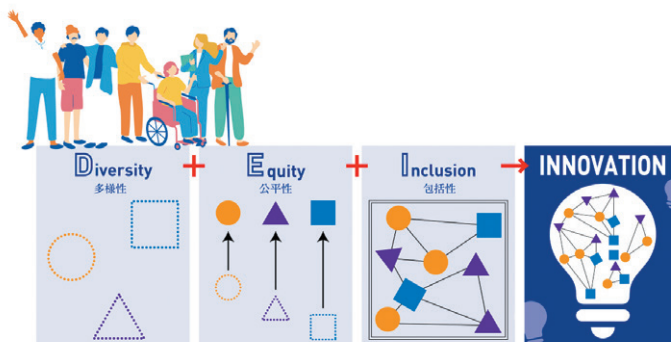


◆ 特例子会社「田中貴金属ネクスト」設立

◆ 田中貴金属ネクスト(株)設立

田中貴金属のDE&Iを一層推進し、誰もが活躍できる環境づくりを目的として、2026年1月に「田中貴金属ネクスト株式会社」を設立しました。同年3月30日には、厚生労働省より特例子会社および関係会社特例の認定を取得しました。

田中貴金属ネクストは、「働く喜びと楽しさを実感し、輝く未来と可能性を描ける会社」をめざし、グループ全体における採用支援や職場定着支援、理解促進を行います。



TANAKA NOW

田中電子工業(株)の職場レポート

田中電子工業(株)購買セクションの内山祥輝さんは、職場実習を経て2017年に入社しました。現在は中間スプールの検査(曲がりの有無確認・拭き取り)、運搬、金属スプールの分別を担当しています。中でも運搬業務は毎日15分/回の頻度で行い、1日の運搬距離は10km弱に及びますが、内山さんは依頼が多い際に特にやりがいを感じるそうです。

安定した業務遂行に加え、周囲への配慮や安全意識、ヒヤリハットの共有を通じた気づきの発信など、真摯な姿勢と確実・安全な仕事ぶりは、職場にとって大きな力となっています。



中央:田中電子工業(株)内山祥輝さん

働き続けられる環境の整備

職場見学・実習

選考・採用

定着支援・
理解促進 など

採用のプロセスから入社後までを見据え、一人ひとりが安心して長く働き続けられる環境づくりに取り組んでいます。

ご本人には、職場実習を通じて実際の業務や職場の雰囲気体験していただき、従業員とのコミュニケーションを通じて相互理解を深める機会を設けています。

実習後に次のプロセスへ進むか否かについては、ご本人と職場、双方の意見を聞きながら進めています。

入社前には配属先での受入れ準備や研修を行い、安心してスタートできるよう環境を整えています。また、企業が箱型職場適応援助者を配置し、入社後の定着に向けた支援体制の充実にも取り組んでいます。

さらに、関係機関とも連携し、それぞれが力を発揮できる職場づくりを進めています。

誰もが自分らしく働ける環境づくりを大切にしながら、今後も取り組みを進めていきます。



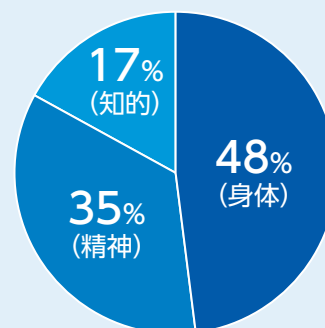
職場での学習会の様子

【障がい者の法定雇用率】(2025年6月1日付)

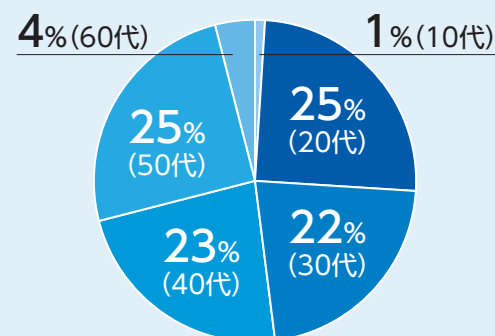
(株)田中貴金属グループ	3.95%
田中貴金属工業(株)	2.24%
田中貴金属リテイリング(株)	1.95%
田中電子工業(株)	2.93%
EEJA(株)	2.88%

【障がいのある方の雇用状況】

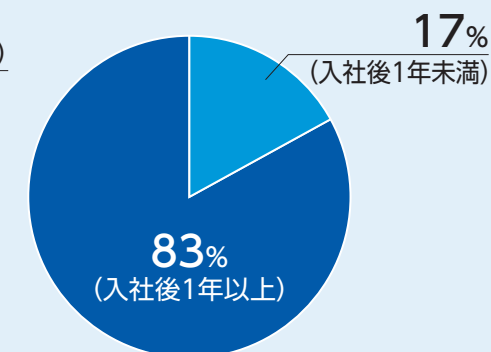
人数	60名
勤務地	各社の工場・事業所・部署
担当業務	多種多様



障がい種別構成



年齢構成



定着率



より安全な職場環境づくり

安全で安心して働ける職場環境の実現に向けて、労働災害と交通事故における安全対策に取り組んでいます。事故発生状況の把握と分析を通じて、リスクの低減と再発防止を進めています。

◆ 事故発生状況の把握と活用

災害・事故情報を集約し、発生状況や傾向を把握できるよう整理しています。2025年度はデータの可視化を進め、事故の発生傾向や要因を確認しやすくすることで、現場での未然防止に活用しています。

◆ 労働災害の防止

当社で発生している主な労働災害は「挟まれ・巻き込まれ」「動作の反動・無理な動作」「転倒」です。作業動作や設備との接触に起因するものが多くみられます。

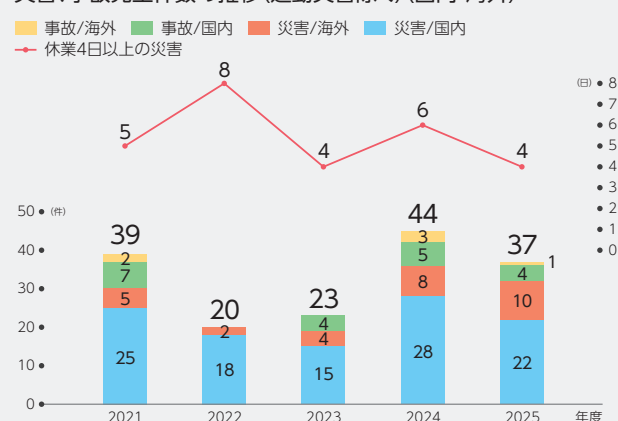
これらの傾向を踏まえ、安全教育や作業手順の見直しを進めています。引き続き、災害の未然防止に取り組めます。

◆ 交通事故防止への取り組み

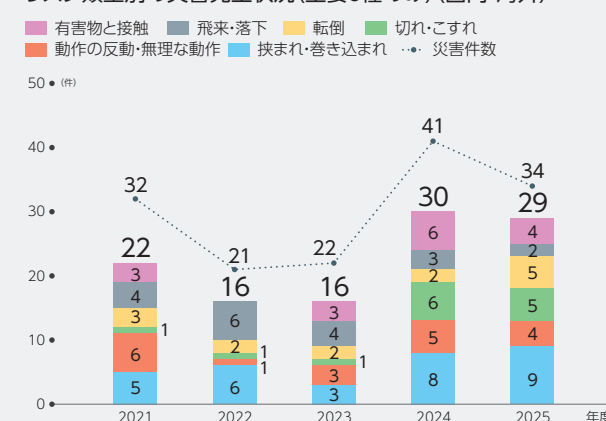
近年は加害事故に比べて被害事故の発生割合が高い傾向にあります。当社では自動車、自動二輪車、自転車すべてを対象として交通安全への働きかけを行っています。特に自動車事故への対策として、衝突被害軽減ブレーキ搭載車の購入時に支援金の支給を行ってきました。本施策は2025年度をもって終了しましたが、交通安全に関する各種施策を継続する中で、近年は加害事故の発生件数が横ばいで推移しています。

今後も、道路交通法改正に対応したルール周知や注意喚起、ならびに安全教育を継続し、交通事故の防止に取り組めます。

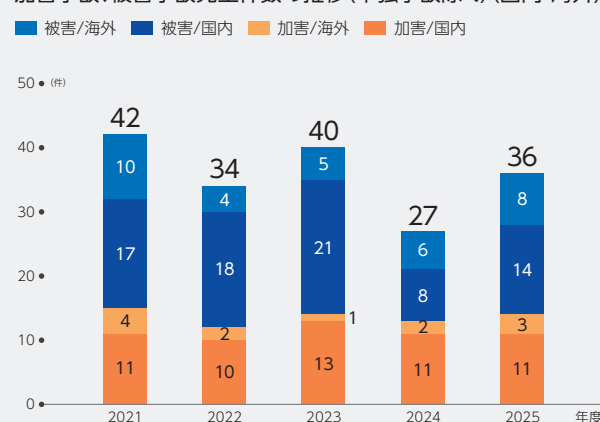
災害、事故発生件数の推移(通勤災害除く)(国内・海外)



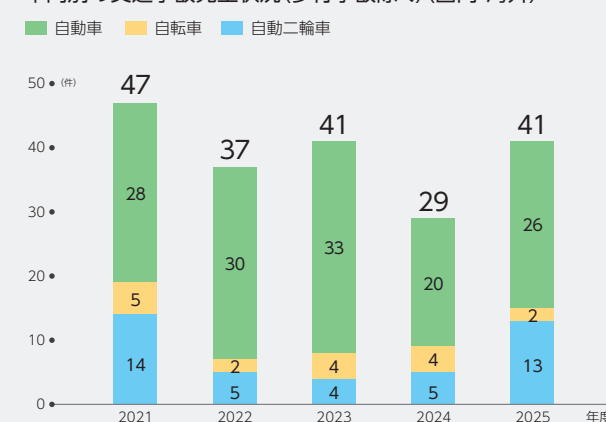
リスク類型別の災害発生状況(主要6種のみ)(国内・海外)



加害事故、被害事故発生件数の推移(単独事故除く)(国内・海外)



車両別の交通事故発生状況(歩行事故除く)(国内・海外)





より安全な職場環境づくり

◆ 安全対策重点実施活動の事例紹介

事例1 > 転倒防止

田中貴金属工業(株)市川工場



改善前

改善後

雨天時に通路上の鉄板で滑って転倒するリスクを低減するため、滑り止め塗装を施工した。

事例2 > 転倒防止

田中貴金属工業(株)市川工場



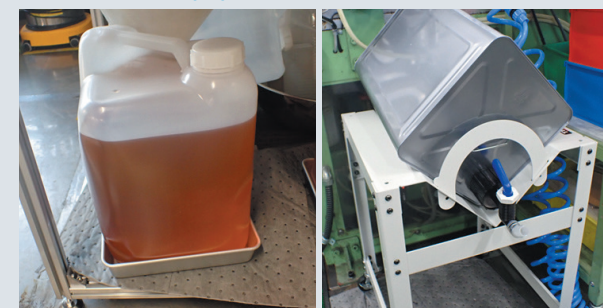
改善前

改善後

ユーティリティ管理部への荷物運搬時のはしご昇降による危険を解消するため、別箇所に必要な幅を確保した階段を新設した。

事例3 > 腰痛防止

田中貴金属工業(株)伊勢原工場



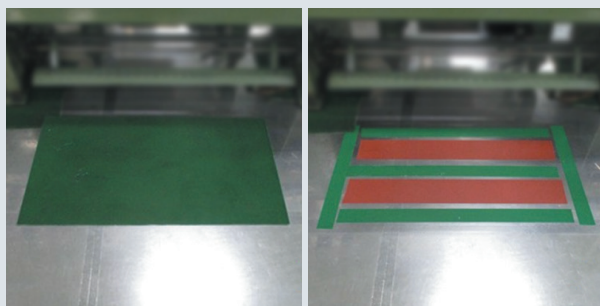
改善前

改善後

液の移し替え作業による腰痛リスクを低減するため、傾斜付き容器台およびコック付き容器を導入した。

事例4 > 転倒防止

田中貴金属工業(株)伊勢原工場



改善前

改善後

装置前のフロアマットのずれによるつまずき・転倒リスクを低減するため、フロアマット下に滑り止めを施工し、マットのずれを防止した。

事例5 > 転倒防止

田中貴金属工業(株)平塚テクニカルセンター



改善前

改善後

フロアの段差について表示による注意喚起を行っていたが、スロープを設置して段差を解消した。また、側面からのつまずきや台車等の横乗りを防止するため、手すりを併せて設置した。

事例6 > 転倒防止

EEJA (株)



改善前

改善後

非常時の転倒リスクを低減するため、防火扉下部の段差部分にトラテープを貼付した。



健康経営の実現に向けて

田中貴金属健康宣言

田中貴金属は、従業員とご家族の幸せと健康を第一に、いきいきと働ける職場環境づくりを通じて広く社会に貢献できるよう、経営課題のひとつとして「健康経営」を推進しています。

取り組み方針

1. 私たちは、社員の健康を経営の重要な原動力と考え、安全と健康を最優先する組織文化の醸成を図っていきます。
2. 私たちは、社員が明るく、元気に働くことができるよう、職場環境を整えていきます。
3. 私たちは、社員とご家族の健康の保持・増進、ワーク・ライフ・バランスの実現、生産性の向上、多様な社員がいきいきと活躍できる職場づくりなどを総合的に推進します。

◆健康診断

疾病の早期発見などの観点から、各種がん検診の項目を追加した定期健康診断を実施し、従業員の定期健康診断および二次検査の受診率は100%を継続しています。

また、45歳を迎える従業員は、その配偶者とともに人間ドックの受診が可能です。

◆メンタルヘルス

メンタルヘルスの取り組みは次のように行っています。

- ◇工場・事業所健康管理室に常駐看護職を配置して社内相談体制を整備
- ◇従業員と家族が利用できる社外相談窓口の設置
- ◇ストレスチェックの実施
- ◇復職制度
休職している従業員がスムーズに職場復帰ができるように社内ルールを作成しています。
- ◇新入社員および通年採用者にメンタルヘルス教育を実施
セルフケア研修を通じて、ストレスの気づきとその対処方法を学びます。

◆健康保持・増進活動

田中貴金属では、従業員と家族の健康保持・増進のために次のような活動を行っています。

①健康チャレンジ

食生活や運動習慣などの生活習慣改善を図り、病気予防と健康意識の向上を目的として実施しています。従業員(家族含む)が個人で取り組む項目を選択し、約2か月間生活習慣改善にチャレンジしました。

②健康的な食事の提供

食堂がある一部の工場・事業所では、塩分・カロリー・野菜量の表示や健康メニューの提供、健康米の導入を行っています。その他、自動販売機にトクホ飲料の設置などを行い、健康的な食生活となるように働きかけをしています。



食育イベントの展示パネル(福岡工場)

③特定保健指導

東京金属事業健康保険組合とのコラボヘルスとして、対象者へ特定保健指導の実施を行いました。

④健康測定会

工場・事業所単位で、従業員参加型のイベントとして体力測定、骨密度測定、野菜摂取量測定などを実施しています。



健康測定会(本社)

⑤健康セミナー

工場・事業所単位で、食生活、腰痛、睡眠、熱中症、オーラルケア、腸活などの健康に関するセミナーを開催しています。

⑥禁煙

工場・事業所屋内禁煙、禁煙外来治療費補助金支給などを行っています。また、本社では2025年7月より紙たばこを禁止としました。

⑦感染症対策

インフルエンザの集団予防接種実施や補助金支給、事業所の各所にアルコール除菌設備を設置し、感染防止に取り組んでいます。

TOPICS

健康優良企業(銀の認定)更新

2025年度も健康保険連合会の「健康優良企業 銀の認定」を受けました。

健康経営優良法人2026認定取得

2026年度も「健康経営優良法人(大規模法人部門)」の認定を受けました。

※(株)田中貴金属グループ、田中貴金属工業(株)、TKT(株)、田中電子工業(株)、EEJA(株)、田中貴金属リテイリング(株)



2026
健康経営優良法人
KENKO Investment for Health
大規模法人部門

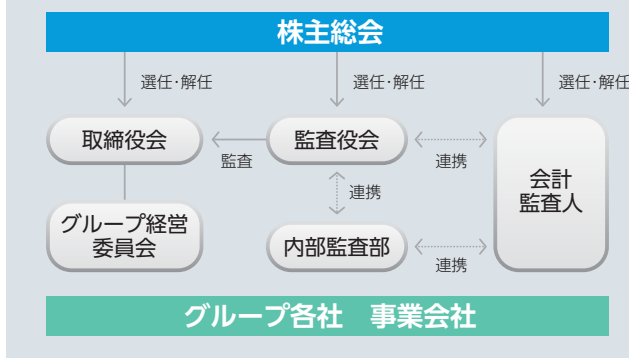
誠実で健全な企業であるために

法令を遵守するだけでなく、社会倫理にも配慮した事業活動をグローバルに展開しています。

◆コーポレート・ガバナンス

田中貴金属では、すべてのステークホルダーの権利と利益を尊重し、適法かつ適正な業務執行および会計などを実現するためにコーポレート・ガバナンス体制を構築し、内部統制基本方針を定めています。この体制と基本方針に基づき取締役会・グループ経営委員会・監査役会・内部監査部がそれぞれの役割を果たしています。

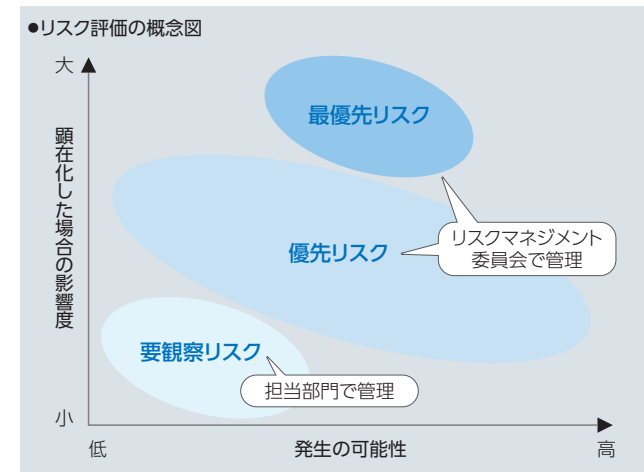
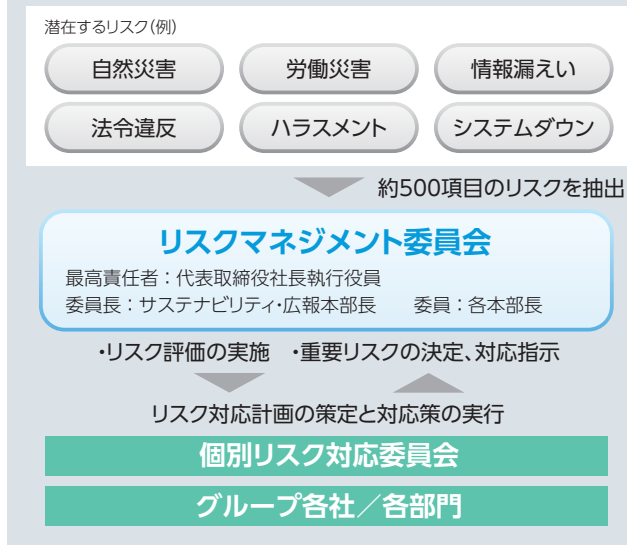
●ガバナンス体制図



◆リスクマネジメント推進体制

(株)田中貴金属グループ代表取締役社長執行役員を最高責任者、サステナビリティ・広報本部長を委員長とするリスクマネジメント委員会を設置しています。年2回開催される同委員会では、リスク評価、リスク対応状況の進捗確認、対応すべき重要リスクの決定と対応指示を行っています。同委員会で決定した重要リスクは、個別リスクを管理する各委員会または担当部門がリスク対応計画を策定し、計画に基づきリスク対応策を実行しています。

●リスクマネジメント推進体制図



◆事業継続に向けた取り組み

当社は、自然災害や感染症、国際情勢の変化など、事業環境に影響を及ぼすさまざまなリスクを重要な経営課題のひとつと認識しています。これらのリスクが顕在化した場合においても、従業員の安全を確保し、重要な事業活動を継続することは、企業としての社会的責任であると考えています。

この考えのもと、当社では事業継続計画(BCP)を策定・運用し、定期的な見直しや訓練を通じて実効性の向上に取り組んでいます。近年は、特定の事象に限定せず、事業の中断要因や経営資源への影響、結果事象に着目した、体制整備を進めています。

また、有事における迅速かつ確かな判断を可能とするため、初動対応の明確化や情報共有体制の強化にも継続的に取り組んでいます。今後も社会環境および事業環境の変化を的確に捉え、事業継続力のさらなる強化を図るとともに、持続的な企業価値の向上をめざします。



誠実で健全な企業であるために

◆「田中貴金属 人権方針」を策定

田中貴金属の事業活動に関連するステークホルダーへの人権侵害を回避するため、2024年10月に「田中貴金属 人権方針」を策定しました。この人権方針は田中貴金属各社のすべての役員・従業員に適用されます。

田中貴金属 人権方針

田中貴金属は、貴金属の可能性を引き出し、よりよい未来を創り出していくことを貴金属のリーディング・カンパニーである私たちの使命とし、事業活動を推進しています。

田中貴金属は事業活動全体において、直接的または間接的に人権に影響を及ぼす可能性があることを理解し、人権が尊重されなければならないと認識しています。

田中貴金属は1885年の創業以来、人を大切にする経営を続けてまいりました。これからも人権を尊重する責任を果たし、持続的に発展する企業を目指します。

1. 適用範囲

本方針は、田中貴金属各社※1のすべての役員・従業員※2に適用されます。

また、人権への影響を受けるステークホルダーの視点から、人権課題の理解や改善、解決に取り組むことが重要であることを認識し、田中貴金属の事業、製品またはサービスと直接関連するステークホルダーと、建設的な対話等によって、人権に対する侵害を回避するよう努めます。

※1: 田中貴金属各社は当社の連結子会社を意味します。

※2: 従業員には、田中貴金属の嘱託、契約社員、パート、アルバイト、派遣労働者が含まれます。

2. 人権に関する国際規範の尊重と適用法令の遵守

私たちは、「国際人権章典」に謳われる人権と、国際労働機関（ILO）の「労働における基本的原則及び権利に関するILO宣言」に規定された基本的権利に関する原則を尊重し、以下の指導原則やガイダンスに則り事業を運営します。

- ・国連 ビジネスと人権に関する指導原則
- ・OECD 多国籍企業行動指針
- ・OECD 紛争地域および高リスク地域からの鉱物の責任あるサプライチェーンのためのデューデリジェンスガイダンス
- ・責任ある企業行動のためのOECDデューデリジェンスガイダンス

なお、適用される各国、地域の法規制を遵守しながらも、当該国の国内法と国際的な人権基準に矛盾がある場合には、国際的に認められた人権を尊重するための方法を追求していきます。

3. 人権尊重の推進体制

田中貴金属サステナビリティ推進担当部門は、サステナビリティ担当上級役員の監督の下、本方針に基づき、人権デューデリジェンスの仕組みの運用および田中貴金属全体の人権尊重の取り組みを推進する責任を持ちます。

4. 人権デューデリジェンスの実施

田中貴金属は人権への負の影響を特定し、重大な負の影響が懸念される場合には、かかる負の影響の防止ないし改善のための取り組みを推進し、その進捗状況を継続的にモニタリングします。この一連の取り組みによる改善により、人権の尊重を確実なものとしします。

田中貴金属は、当社の事業、製品またはサービスと直接関連するステークホルダー等が本方針と同等の基準を満たすこと、および、田中貴金属と協働して人権の尊重に取り組むことを期待します。

5. 人権尊重の責任

田中貴金属は、現代奴隷/強制労働および人身売買の禁止、児童労働の禁止、雇用および職業における差別の排除、結社の自由、団体交渉権の効果的な承認、安全で健康的な労働環境の実現に向けて取り組みを推進し、人権の侵害を回避し、人権への悪影響となるものへの対処をします。

健全な企業であるために、責任ある原材料の調達や地球環境保全、安全な職場づくり、従業員の健康保持、個人の多様性の尊重等に取り組んでいます。

特にこの中でも、「責任ある鉱物調達方針」および「責任ある貴金属調達方針」を制定し、いわゆる紛争鉱物や原材料鉱物の調達において、児童労働をはじめとする人権侵害などの排除を推進しています。

6. 救済・是正処置

田中貴金属は事業、製品またはサービスが、人権への負の影響を引き起こした、または助長したことが判明した場合は、適切な手段により、その是正に取り組みます。また、関係者を通じて、人権に対する負の影響に直接関連したことが明らかになった、またはその関連が疑われる場合、関係者への働きかけを通じて救済に努めます。

人権への負の影響が生じた、またはそのおそれのある人々が通報可能な社内外の苦情処理メカニズムを通じて、ステークホルダーからの懸念や苦情を受け付けることができる体制構築に取り組み、問題解決または救済の実施に努めます。

7. 教育

すべての役員・従業員に対し、必要に応じた教育や訓練のプログラムを構築し、人権に関する教育を定期的実施します。

8. 対話

関連するステークホルダーと人権への顕在的または潜在的な負の影響を特定し、対話・協議を行います。

9. 情報の開示

本方針に基づく取り組みの進捗状況を、報告書等を通じて開示します。

2024年10月1日 田中貴金属 グループCEO



誠実で健全な企業であるために

◆ コンプライアンス教育

田中貴金属では、コンプライアンス意識の向上と不正行為防止を目的として、コンプライアンスガイドブックを作成し、全従業員への周知を行っています。新入社員研修に加え、赴任者研修、駐在員研修、女性管理職育成プログラム、法務部主催の契約コンプライアンス研修など、さまざまな機会を通じて内容の理解を促進しています。また、同ガイドブックは社内ポータルサイトに掲載しています。さらに、社内通報制度、独占禁止法遵守、腐敗防止、個人情報保護、営業秘密をテーマとしたeラーニング教材を整備するとともに、海外赴任者に対しては現地法令に関する教育を行い、グループ全体のコンプライアンス意識向上に取り組んでいます。

◆ 行動憲章・行動規範

田中貴金属は、「田中貴金属 行動憲章・行動規範」において、国籍、人種などによるあらゆる差別をなくし、児童労働や強制労働を一切行わないことを宣言しています。また差別やハラスメントなどの行為を防止するための社内教育を行い、相談や違反を通報できる制度を設け、通報者は不利益を受けないよう厳格に保護されています。さらに、外国籍労働者に対しては、採用にあたり労働者から登録料や手数料を徴収しないこと、身分証明書、パスポート、労働許可証、ビザ等は本人が保管することなど、労働者の人権に配慮するための手順を定めています。

田中貴金属 行動憲章・行動規範

<https://www.tanaka.co.jp/company/group/jpn-charher/>

◆ ハラスメント研修

田中貴金属では、役員および従業員を対象に、ハラスメント防止を目的とした各種研修を継続的に実施しています。2025年度は女性管理職育成プログラムにおいて約300名の役職者に対しハラスメント教育を実施しました。このほか、多様性理解研修実施やユニバーサルマナー検定の受講を通じて、相互尊重の意識醸成を図っています。これらの取り組みにより、ハラスメントにつながり得る行為を未然に防ぐとともに、誰もが安心して働ける職場環境の実現をめざしています。

◆ 社内通報制度

2025年度の社内通報件数は13件でした。すべての案件について公益通報者保護法ならびに社内通報制度規程に則って通報者保護と守秘義務を遵守し適切に対処しています。

◆ 営業秘密に関するコンプライアンス教育

田中貴金属では、営業秘密の適切な管理を徹底するため、国内外の法令に対応したコンプライアンス教育を継続的に実施しています。2024年度までは国内法に基づき、日本拠点の従業員を中心にeラーニングや確認テストを実施し、秘密保持義務や競業避止義務に関する理解の浸透を図ってきました。

2025年度は、海外拠点への展開を見据え、各国の現地法に準拠した教育資料の整備を進めました。地域ごとに異なる法令へ対応するとともに、グローバルで一貫性のある教育体制の構築を進めています。2026年度には海外拠点を対象としたeラーニングを計画しています。

国内においては、法改正への適切な対応を見据えた次期教育の準備を進めています。特に、SNSの利用拡大やDX推進に伴う情報漏えいリスクの高まりを踏まえ、意識向上と管理体制の強化に取り組んでいます。

今後もグループ全体で営業秘密の適切な取り扱いを徹底し、リスク低減に努めてまいります。

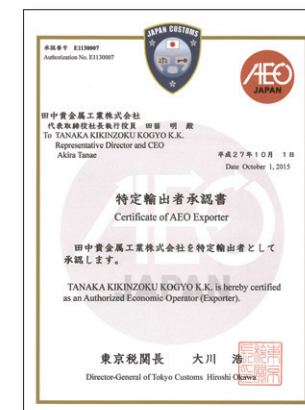
◆ 安全保障貿易管理

国際的な平和および安全を基盤として、世界中のお客様に製品やサービスをお届けするグローバル企業にとって、国際協調に基づく適切な輸出管理は欠かすことのできない責務となっています。

田中貴金属工業(株)は、外為法などの法令に則り、独自の「安全保障貿易管理規程」(CP)を定め、経済産業省に届け出しています。当社の製品や技術が国際テロ犯罪や核兵器・生物化学兵器などに転用されることを防ぐため慎重な輸出管理を行うとともに、域外適用により事実上全世界に規制が及び米国輸出管理規則(EAR)などについても常にその動向を把握し適切な対応に努めています。

◆ AEO認定輸出者としての取り組み

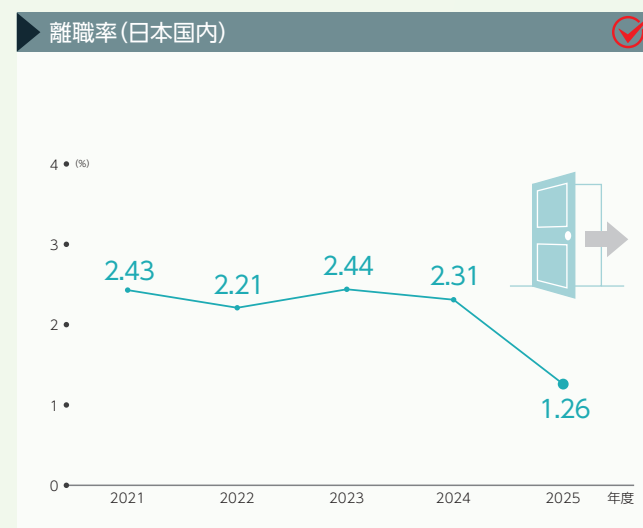
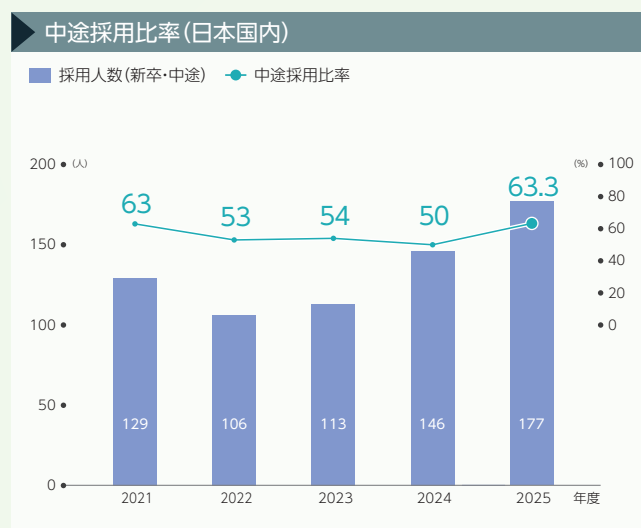
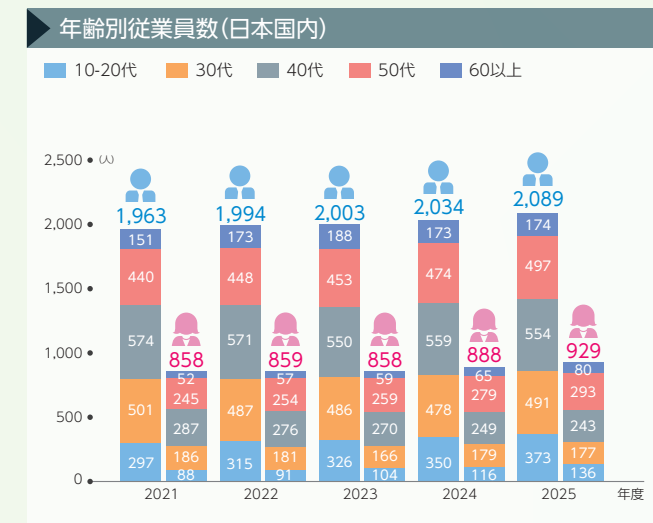
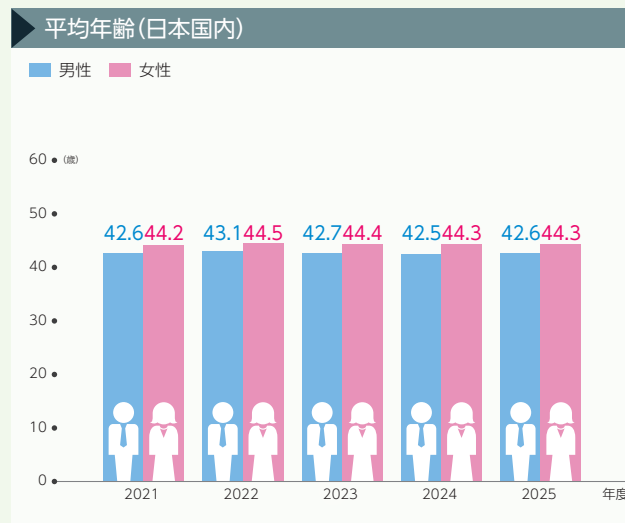
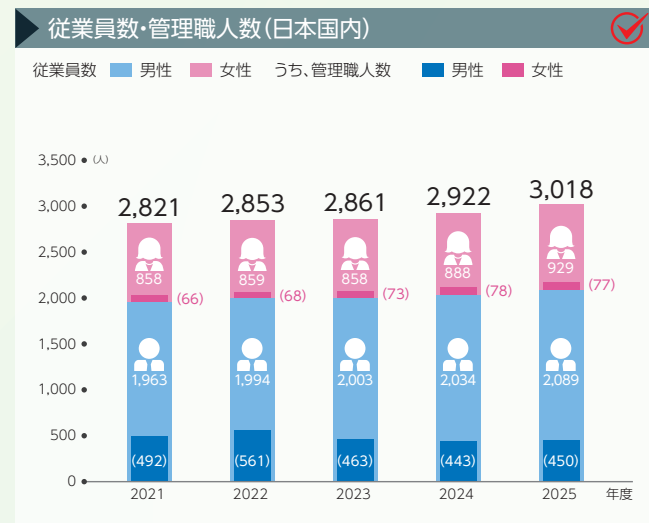
田中貴金属工業(株)は、税関当局から認められた特定輸出者(AEO認定輸出者)として、貨物、輸送、敷地などの安全性の確保、内部監査、委託先管理、税関・社内の連絡体制、教育体制などのコンプライアンス体制を整備するとともに、信頼性の高いセキュリティのもとで製品提供を行っています。



CSRパフォーマンス

CSRに関するさまざまな指標を、改善・悪化にかかわらず開示します。
指標については世の中の動向やステークホルダーの要求に応じて適宜見直しを行います。

※2023年度の会計年度変更に伴い集計期間を変更しています。
2021年度～2022年度:4月1日～翌3月31日
2023年度～2024年度:1月1日～12月31日
2022年度、2023年度では2023年1月～3月のデータを重複して集計しています。



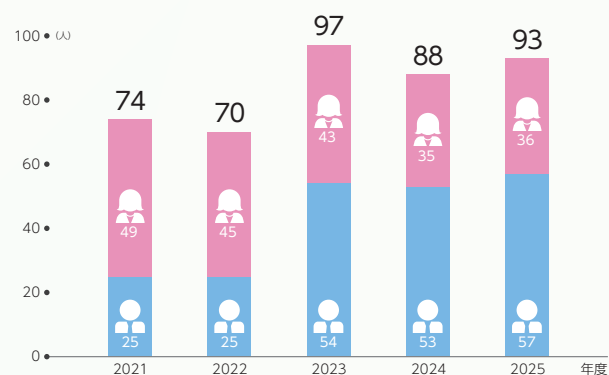
※ マークは第三者保証を受けた数値です。

CSRパフォーマンス

育児休業取得者数(日本国内)



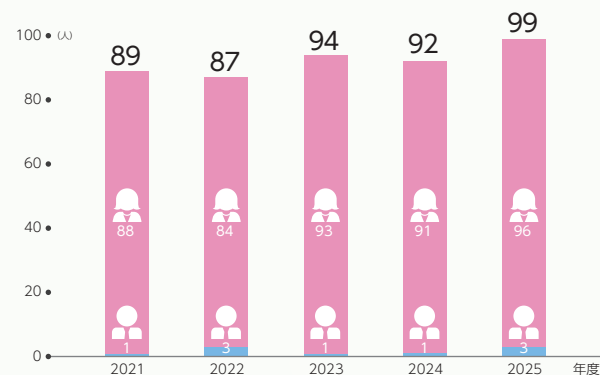
■ 男性 ■ 女性



育児短時間勤務取得者数(日本国内)



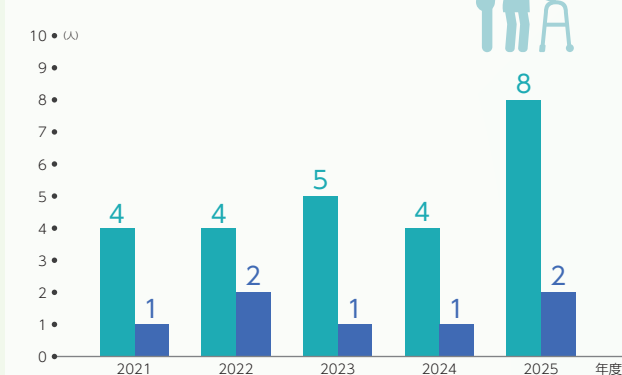
■ 男性 ■ 女性



介護休暇取得者数・介護短時間勤務取得者数(日本国内)



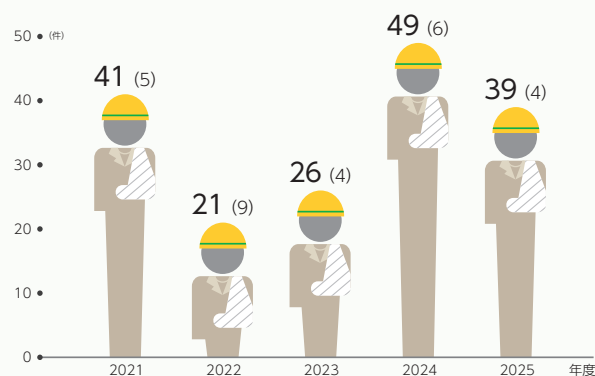
■ 介護休暇 ■ 介護短時間勤務



労働災害発生件数



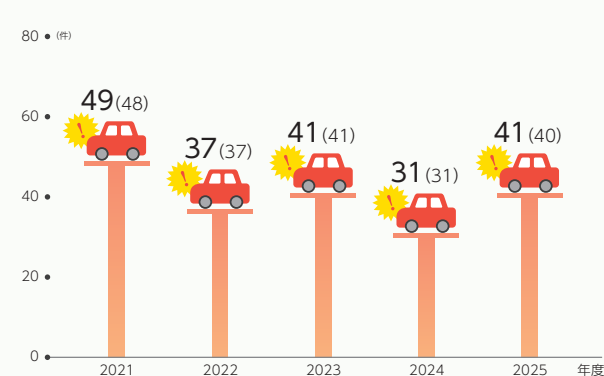
労働災害 ()内は休業4日以上災害の内数



交通事故発生件数



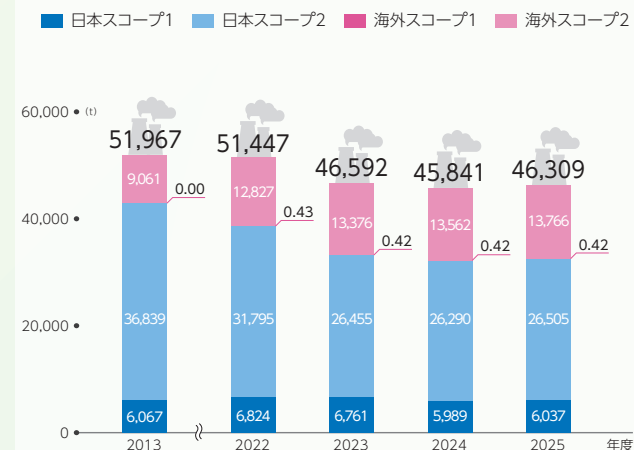
交通事故 ()内は通勤時の内数



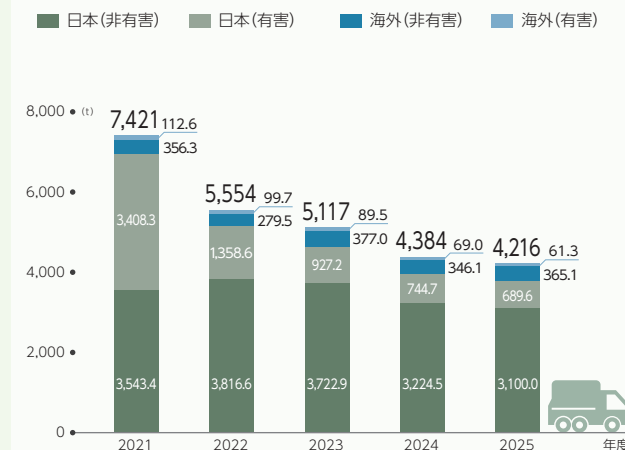
※ マークは第三者保証を受けた数値です。

CSRパフォーマンス

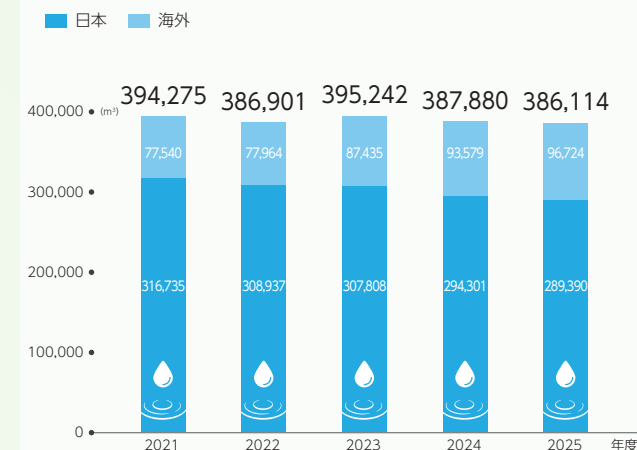
CO₂排出量(田中貴金属 国内・海外)



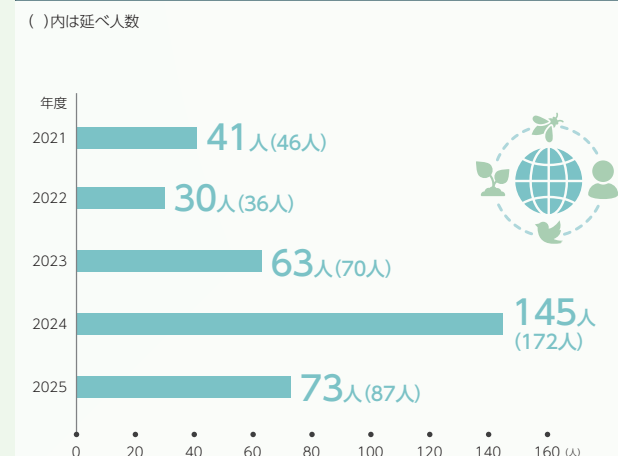
産業廃棄物排出量(田中貴金属 国内・海外)



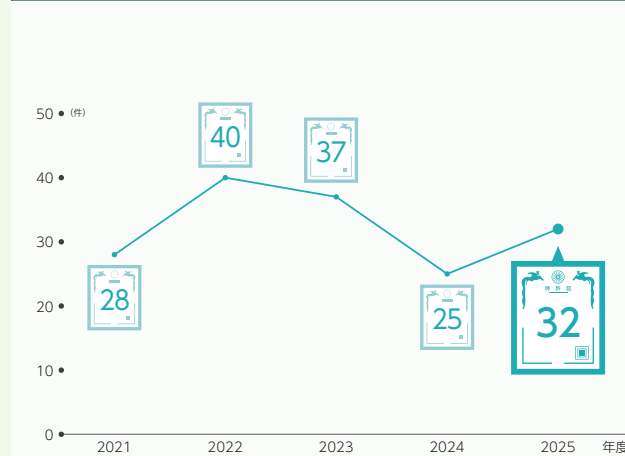
取水量(田中貴金属 国内・海外)



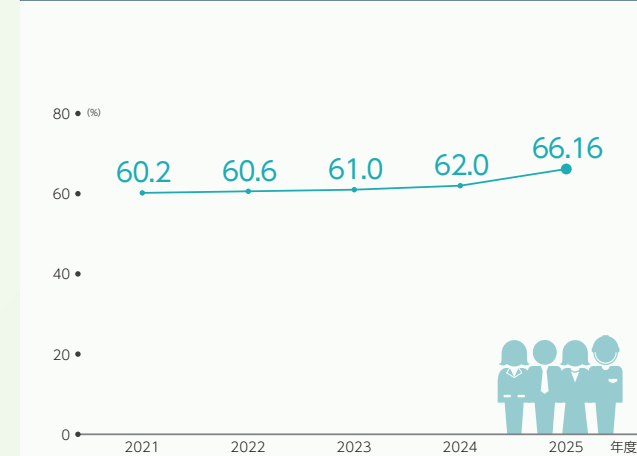
生物多様性保全活動 参加人数(日本国内) ※実数



新規特許登録件数(日本国内)



組合組織率(日本国内)



第三者保証

田中貴金属では、CSR報告書に掲載するCSRパフォーマンスデータの信頼性向上を目的として、株式会社サステナビリティ会計事務所に第三者保証を依頼しています。詳細は以下の通りです。



独立第三者の保証報告書

2026年6月22日

株式会社田中貴金属グループ
代表取締役社長執行役員 田中 浩一郎 殿

株式会社サステナビリティ会計事務所
代表取締役 福島隆史

1. 目的

当社は、株式会社田中貴金属グループ（以下、「会社」という）からの委嘱に基づき、2025年度の各指標（対象となる指標については別紙参照。以下、「パフォーマンス指標」という。）に対して限定的保証業務を実施した。本保証業務の目的は、パフォーマンス指標が、会社の定める算定方針に従って算定されているかについて保証手続を実施し、その結論を表明することにある。パフォーマンス指標は会社の責任のもとに算定されており、当社の責任は独立の立場から結論を表明することにある。

2. 保証手続

当社は、国際保証業務基準 ISAE3000 ならびに ISAE3410 に準拠して本保証業務を実施した。当社の実施した保証手続の概要は以下のとおりである。

- ・算定方針について担当者への質問
- ・算定方針の検討
- ・算定方針に従ってパフォーマンス指標が算定されているか、試査により入手した証拠との照合並びに再計算の実施
- ・現地往査

3. 結論

当社が実施した保証手続の結果、パフォーマンス指標が会社の定める算定方針に従って算定されていないと認められる重要な事項は発見されなかった。

会社と当社との間に特別な利害関係はない。

以上

(1/2)



(別紙)

パフォーマンス指標 一覧

項目	2025年度実績
エネルギー消費量（原油換算）	25.3ML
CO ₂ 排出量	スコープ 1: 6.04 千 t-CO ₂ スコープ 2（マーケットベース）: 40.3 千 t-CO ₂
廃棄物排出量	4.22 千 t
うち 非有害廃棄物	3.47 千 t
有害廃棄物	0.75 千 t
取水量	386 千 m ³
従業員数（2025年12月31日時点）	男性 2,089 人 女性 929 人
管理職人数（2025年12月31日時点）	男性 450 人 女性 77 人
育児休業取得者数	男性 57 人 女性 36 人
育児短時間勤務取得者数	男性 3 人 女性 96 人
介護休暇取得者数	8 人
介護短時間勤務取得者数	2 人
離職率	1.26%
労働災害発生件数	39 件
交通事故発生件数	41 件

各パフォーマンス指標のパウダリティーは「CSR 報告書 2026」に記載

(2/2)